

2016年12月1日

みずほディーラーズアイ (2016年12月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 109.00 ~ 118.00

国際為替部 為替営業第二チーム 橋 雄史

■ 先月の為替相場

11月のドル/円相場は予想外の米大統領選結果を受け、大きく上昇した。

月初1日は104円台後半でオープン。2日～3日にかけては、米大統領選の最新世論調査で、クリントン候補とトランプ候補の支持率が接近しているとの報道を受け、リスク回避の動きから103円台前半まで下落。4日は米10月雇用統計で平均時給が約7年ぶりの強い数字となるも、米大統領選を翌週に控え103円台前半で越過。7日は、クリントン氏の私用メール問題について訴追を求めないFBIが米議会に伝えたことが報じられるとリスク回避ムードが和らぎ、104円台前半まで上昇。8日～9日にかけてはクリントン氏優位との見方が強まる中、投票票が進むに連れてトランプ氏の勝利が意識されると、103円台前半まで下落。その後、トランプ氏の勝利が確定すると、月間安値101.19円まで急落した。しかし、海外時間に入るとリスクオフムードが一変。トランプ次期大統領の経済政策に対する期待感などから米金利が上昇し始めると、ドル/円もストップロスを巻き込みながら急反発。10日～11日にかけてもドル買いは続き、一時106.95円まで上昇した。

週央14日、海外時間にはダウ平均株価が史上最高値を更新する動きに108.54円をつけた。その後は12月FOMCにおける利上げがほぼ確実視される中で109.76円まで上昇したが、米10月生産者物価指数(PPI)が市場予想を下回ったことで、109円台前半まで押し戻された。17日はドル売りが強まり108.55円まで下落するが、日銀による指値オペの報道が伝わると反発し109円台を回復。その後、イエレンFRB議長の「比較的早い利上げが適切」との発言を受け、米10年債が約1年ぶりとなる2.30%台に上昇すると、節目の110円を突破し110.18円まで上昇。18日にはFRBメンバーのタカ派コメントもあり、110.95円まで続伸した。

週後半21日、米金利低下を背景に110円台半ばまで弱含むも、堅調な米株を受けたドル買いから111円台前半まで上伸。22日は福島県沖での地震を受けたリスク回避の流れから、110円台前半まで値を戻した。23日は、米10月耐久財受注や米11月ミシガン大学消費者マインドの良好な結果が好感され、113円近辺まで急伸。24日は、米国が感謝祭で休場となる中でもドルが買いが進み、25日には113.90円まで上昇。28日は特段材料がない中、急ピッチで上昇してきたドル/円の調整売りが入り、111.36円まで急落した。29日はOPEC総会を控えて上下往って来いとなり、月末30日はOPEC総会で減産合意がなされると、9か月ぶりの高値となる月間高値114.55円をつけ、114円台半ばで越月した。

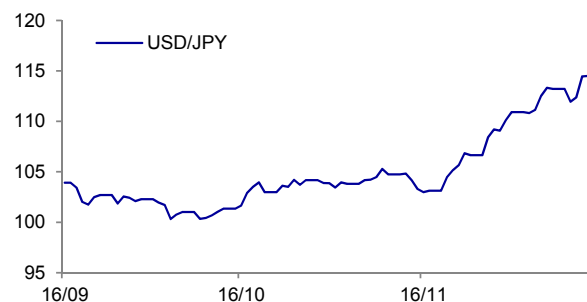
■ 今月の見通し

今月のドル/円相場は、トランプラリーの巻き戻しに警戒も、底堅い展開を予想する。トランプ氏の大統領選勝利から3週間が経過し、ドル/円相場は選挙前の105円から足許114円台へと大きく水準を切り上げている。トランプ氏の掲げる巨額の財政政策が米国のインフレ率上昇に寄与するとの見方により、米金利上昇がドル/円の上昇に繋がっている。足許はトランプ氏の掲げる政策のポジティブな面がマーケットに織り込まれており、選挙前に同氏が発言してきた極端な通商・移民政策は未だに不透明な点も多く、急ピッチで進んできたトランプラリーの調整を警戒する向きは多いが、前月末に111円台まで下落した場面では、押し目買い需要などから112円台に戻り、トランプラリーの勢いは依然として根強いことが感じられる。また、先月28日に発表されたOECDの2017年世界経済見通しでは、トランプ次期大統領が公約したインフラ投資が成長率予想に織り込まれるなど、2017年は各国の財政政策により世界の成長率が上向くとの見方も出てきており、今後は財政政策に対する議論が活発化し、グローバルな財政拡大期待という楽観的な見方が、下値をサポートする展開も無視できない。

また今月最大のイベントは、13日～14日に開催されるFOMCとなる。金利先物市場における今月の利上げ確率は100%を示し、昨年12月の利上げ実施時には70%程度であったことを勘案すれば、今回の利上げによる影響は限定的となる。ただし、イエレンFRB議長が言及した「高圧経済」の認識には注意が必要で、トランプ氏の掲げる財政政策への期待により、更なる米金利上昇が見込まれる場合には、FRBが目指す2%以上の物価上昇を容認するかにも焦点が集まろう。米経済指標にも注目は集まるが、雇用情勢は概ね完全雇用に近い状態であり、年明け1月のトランプ次期大統領の就任までは、モメンタム中心の相場展開が継続しよう。日本のイベントでは19日～20日に日銀金融政策決定会合が開催されるが、先月1日の会合では金融政策の現状維持が決定されたほか、同日発表された展望レポートでは、物価2%程度の達成時期が18年度ごろに先送りされたこともあり、今回の会合で政策変更が行われるとの見方は低い。欧州では4日にイタリアで国民投票が行われ、結果次第では政治リスクの高まりからリスクオフムードが強まる展開も想定されるが、米経済が回復基調を示している状況に変わりはなく、グローバルなドル独歩高の流れは継続しよう。トランプラリーの巻き戻しに注視しつつも、ドル円は米金利上昇期待にサポートされ、底堅い展開を見せるのではないかと。

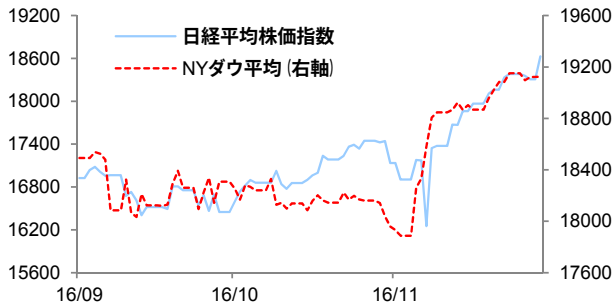
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	米ISM製造業景況指数	10月	51.7	51.9	51.5
11/2	米ISM非製造業景況指数	10月	56.0	54.8	57.1
11/4	米非農業部門雇用者数変化	10月	173K	161K	156K
11/4	米失業率	10月	4.9%	4.9%	5.0%
11/4	米平均時給(前月比)	10月	0.3%	0.4%	0.2%
11/15	米小売売上高(前月比)	10月	0.6%	0.8%	0.6%
11/22	中古住宅販売件数	10月	5.44M	5.60M	5.47M
11/23	米耐久財受注(前月比)	10月	1.7%	4.8%	0.4%
11/25	日全国CPI(前年比)	10月	0.0%	0.1%	-0.5%
11/29	米GDP(年率/前期比)・2次	7-9月期	3.0%	3.2%	2.9%

カスタマーディーラーの相場観、注目点 (本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル・ドル (6名、109.00～118.00、中心109.50～117.00)

藤崎	109.00 ～ 117.00	FRBが利上げに踏み切る可能性が高いこと、トランプ相場の継続を材料に目先は利率的にドルを買う展開を予想する。トランプ氏が実際にはドル高を望んでいないと見られること、年末年始にかけては薄商いとなり易いこともあり、相場の急変には注意が必要。
加藤	110.00 ～ 118.00	米大統領選以降のドル高は日柄的に早すぎる。従って当初は調整的なドル売りを予想する。一方で市場参加者の目は明らかに金利(利回り)に向かっており、本邦がマイナス金利に固執する以上金利差の拡大を背景にその後のドル/円はしばらく天井を探すことになる。
高田	109.00 ～ 117.00	直近ではトランプ次期大統領の拡張的な財政政策をベースに期待感が先行するドル高相場のトレンドを反転させるほどの材料は見当たらず、底堅い展開を予想する。過熱気味の相場がイベントに関係なく急落し、調整する場面もあるが一時的と考える。
佐藤	109.00 ～ 118.00	トランプラリーは継続。米国は政権移行期にあり、ドル安牽制は想定せず。12月FOMCでの利上げに加え、来年の利上げ継続期待もあり、ドル/円は上値トライの展開に。
西谷	110.00 ～ 117.00	トランプ次期米大統領の政策期待の伴う足許のドル高地合はしばらく継続すると考えている。またFRBの利上げペースに関しても、ここもと堅調な米経済指標の発表が続いており、次回FOMCで発表される政策金利見通しがタカ派な内容となれば、一段と上昇することも想定される。
鶴田	110.00 ～ 117.00	注目の米12月FOMCにて利上げ実施となれば、市場予想通りとなり安心感からドル買いが進みドル/円は上昇すると予想。足許一服感を見せている米長期金利が、再び上昇する展開となれば、ドル/円も直近上値を試す展開となるだろう。

■ドル・ペア (5名、105.00～117.00、中心106.00～117.00)

山下	105.00 ～ 115.00	FOMCでの利上げが行われれば、むしろ利上げを前に公にドル高けん制が出来なかった米国サイドから、ドル高是正に向けたアクションが取られる可能性が高い。そもそも、FOMCの利上げが市場織り込み済みであり、ドル/円の上昇は一時的なものとする。
矢野	108.00 ～ 117.00	米大統領選後のドル高相場の主因と見られる債券売りに伴う金利上昇もそろそろピークアウト。12月FOMCでの利上げは既に織り込み済みであり、イベント通過後の上昇も限定的と見ている。材料消化後はオーバーシュートの修正から、徐々に上値が重くなると予想。
西島	106.00 ～ 117.00	FOMCでの利上げが確実視される中、良好な米指標などを横目に一段とドル高が進む可能性はあり、相応の上値を想定する必要はありそう。ただし、トランプ相場の調整局面を誰しもが警戒する状況下、FOMC通過後あたりからは徐々に調整色が強まりドル/円を押し下げる展開を想定。
下山	107.00 ～ 117.00	これまでのドル高が調整されると予想。ドルインデックスが100を超えて推移しているがトランプ次期大統領への「期待感」によるところが大きく、実体を伴うものではない認識。特に短期筋がドルロングポジションを積み上げていると考えているが、FOMCや年末に向けてドルの調整売りが入ると予想する。
森谷	106.00 ～ 116.00	大統領選挙後に急速な上昇を見せてきたが、期待だけが先行している印象は否めず、次第に調整が強まり上値を押さえられる展開を予想。今月のFOMCでの利上げは既に織り込みが進んでおり、利上げ期待を背景としたドル買い圧力もさほど強くはならないだろう。

ユーロ相場

予想レンジ:

EUR/USD 1.0200 ~ 1.0800
EUR/JPY 116.00 ~ 122.00

国際為替部 為替営業第二チーム 森谷 友一

■ 先月の為替相場

先月のユーロ相場は、米大統領選挙後に大きく下落する展開となった。月初1日に1.09台後半でオープン。世論調査においてトランプ候補の支持率がクリントン候補に大きく近づき、ドル売り優勢地合になると対ドルで1.10台後半まで上昇。2日はユーロ圏10月製造業PMIの良好な結果を好感し1.11台前半まで続伸すると、翌3日には1.11台前半まで買い進められた。4日は米10月雇用統計の結果はほぼ市場予想に沿うものとなり影響は限定的だったが、その後1.11台半ばまで上昇した。

7日はFBI長官がクリントン氏の私用メール問題で訴追を求めないと言ったことなどを背景にドル買い地合いとなり1.10台前半まで下落。8日は様子見ムードから1.10台でレンジ推移。9日、米大統領選の開票序盤はクリントン氏の勝利を予想する向きが拡がり、1.09台後半まで下落。しかし、次第にトランプ氏勝利への警戒感からドル売りが強まり月高値となる1.1300まで大きく上昇。しかし、トランプ氏勝利宣言後は財政出動や大型減税を行えば米景気が押し上げられるとの期待感から、ドル買いが強まり1.09台前半まで下落。10日から11日にかけてもドル買い優勢の展開が続く中、1.08台前半まで下落した。14日はドル買い地合いが継続し、ユーロは対ドルで1.07台前半まで下落。15日は欧州金利上昇を背景にユーロは1.08台前半まで強含むも、その後はOPEC総会における減産合意期待から原油価格が反発すると、ドル買い優勢の展開となり1.07台前半まで押し戻された。16日から18日にかけてはイエレンFRB議長が議会証言において年内利上げを示唆した事などからドル買いが継続し1.05台半ばまで値を下げた。

21日はドラギECB総裁の発言を受けて12月ECB理事会における資産購入プログラム期間延長への期待が高まり、対ドルで1.05台後半まで下落。22日は1.06台半ばまで上昇する局面もあったものの、欧州金利低下を受け1.05台後半まで売り進められた。23日は良好な米経済指標の結果を好感したドル買いに1.05台前半まで続落。24日は米国が感謝祭で休場となる中、対ドルで月安値となる1.0518をつけたが、引けにかけて反発した。25日は週末を前にユーロが買い戻され1.05台後半まで戻す展開となった。

28日はポジション調整などから1.06台後半まで上昇した後、再び1.05台後半まで押し戻されたが、29日はECBがイタリア国債の購入額を一時的に増やす可能性があるとの報道などを受けて1.06台半ばまで上昇した。30日はOPEC総会において減産合意となるとドル買いが強まり1.05台後半で越月した。

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は上値の重い展開を予想する。ユーロ相場を左右する材料として、4日(日)のイタリア国民投票に注目が集まっている。上院権限を制限するための憲法改正を問うものではあるが、過去にレンツィ首相が自身の進退を賭けると述べていたこともあり、実質的にはレンツィ首相の信任投票の色合いが強いとされている。現時点の世論調査では否決が優勢であり、実現すればユーロ圏の政治的リスクの高まりが意識されるだろう。国民投票後に実施される予定のイタリア国内大手銀行の増資や不良債権処理などの再建計画実施に悪影響を与えうると考えられるため、ユーロ売りが進行するだろう。反対に事前の調査に反して可決となった場合でも、ユーロ圏では来年政治イベントが相次ぐことから、今回の結果だけを持ってユーロ圏の政治的リスクが一気に後退するということはないと考える。

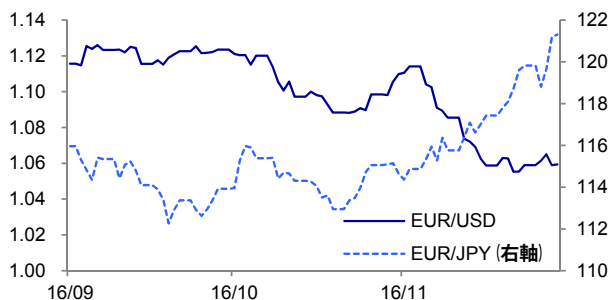
8日にはECB理事会が開催される予定。ECBの政策についてはテーパリング観測が浮上する局面もあったが、ドラギECB総裁の最近の発言や先月公表されたECB理事会議事要旨の内容を見る限り、引き締めというよりは緩和姿勢が継続していると見られる。今月のECB理事会では拡大資産購入プログラム(APP)の期限延長などが予想されており、緩和姿勢の継続が改めて示されることとなればユーロの上値を押さえる材料として意識されるだろう。

また、ドル相場の動向もユーロに大きく影響を与えると見る。先月のユーロ相場は米国大統領選挙後に大きく水準を下げる展開となった。トランプ氏が掲げる大規模なインフラ投資や大幅減税に対する期待感から米金利が上昇、ドル買いが強まったことが背景にある。足許のドルの強さはトランプ氏の政策に対する期待感ばかりが先行している印象があり、その持続力には疑問を抱かざるを得ないが、来年1月にトランプ氏が就任するまでは具体的な政策に関する言及は出てこないと見られ、調整局面こそあっても、期待感先行のドル買い優勢の展開となると考えている。さらに、今月のFOMCでは利上げが行われることがほぼ確実視されている状況。最近では年内利上げ期待に留まらず、来年以降の利上げ期待の高まりも意識されているだけに今回利上げに踏み切った場合でも、材料出尽くし感によるドル売りは限定的となろう。

従って、政治的リスク、金融政策格差を背景に今月のユーロ相場は上値の重い推移を予想する。

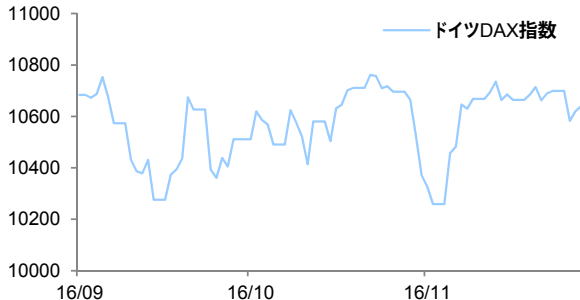
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/4 欧	PPI(前月比)	9月	0.0%	0.1%	▲0.2%
11/7 欧	小売売上高(前月比)	9月	▲0.3%	▲0.2%	▲0.2%
11/11 独	CPI(前年同月比)	10月	0.2%	0.2%	0.2%
11/15 欧	GDP(季調済/前期比)	3Q	0.3%	0.3%	0.3%
11/15 独	ZEW調査(期待)	11月	8.1	13.8	6.2
11/23 欧	消費者信頼感	11月	▲7.8	▲6.1	▲8.0
11/23 欧	製造業PMI(速報値)	11月	53.3	53.7	53.5
11/24 独	IFO企業景況感指数	11月	110.5	110.4	110.4
11/30 欧	CPI予想(前年比)	11月	0.6%	0.1%	0.5%

カスタマーディーラーの相場観、注目点 (本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (2名、1.0400～1.1200、中心1.0450～1.1100)

矢野	1.0400 ～ 1.1000	米大統領選に伴う米ドル上昇を受けての調整も一旦落ち着きを見せているが、FOMCの利上げは織り込み済みであり、ここからのドル高は限定的と見ている。また、イタリア国民投票やECBのQE延長といった材料を無難に消化出来れば、徐々に戻りを試す展開となろう。
下山	1.0500 ～ 1.1200	これまでのドル高が調整されると予想。ドルインデックスが100を超えているが米次期政権への期待感によるところが大きく、実体を伴うものではない。短期筋がドルロングを積み上げているのだろうが、節目の1.05では跳ね返されており警戒感もあろう。FOMCや年末に向けて徐々にドル安となると予想する。

■ ユーロ・ベア (9名、0.9900～1.1800、中心1.0200～1.0800)

藤崎	1.0200 ～ 1.0900	FRBによる利上げ期待、トランプ新政権の財政出動への期待、欧州における政治リスクの高まりから、ユーロの上値が重い展開を予想。イタリアの国民投票が現政権の退陣に繋がる結果となれば、ユーロ圏の政治リスクが強く意識され、ユーロは急落の可能性あり。
加藤	0.9900 ～ 1.1800	イタリア国民投票を皮切りに来年に向けてフランスなど政治的イベントが数多い。ユーロの先行き不透明感はやはり拭えないのではないかと。年末の流動性が枯渇した中で投機筋が先ずはパリティライを仕掛けるのではないかと思う。
山下	1.0200 ～ 1.0900	ギリシャ金融支援の年内最終合意も、債権団は遅々として進まぬ財政再建に不信感を抱いており、依然、ギリシャ問題は不透明感が漂う。加えて、ドラギECB総裁によるECBの追加緩和と示唆発言もトーンを強めており、ユーロは上値重い展開を予想する。
高田	1.0200 ～ 1.0800	ECBによる追加緩和観測が台頭する一方で、来年以降の米利上げ期待からユーロは上値重く推移するであろう。今月はイタリア、来春はフランス、来秋はドイツ等、政治的イベントを控え先行き不透明感が高まりユーロは積極的に買いにくい展開となろう。
佐藤	1.0300 ～ 1.0800	米新政権の政策期待や利上げ観測を背景にドル堅調地合いは継続。また、ECB理事会での金融緩和期間延長の可能性やイタリア国民投票等のイベントもあり、ユーロは波乱含みの展開に。
西島	1.0200 ～ 1.0900	BREXIT、トランプ氏勝利に続いてイタリア国民投票でもポピュリズム台頭の勢いを意識させる結果となる可能性大。欧州発のリスクオフへの警戒が囁かれる中、ユーロは売り圧力に晒される場面が目立ちそう。ECBのQE期限延長などが決まれば一段とユーロ相場の重石となろう。
西谷	1.0200 ～ 1.0800	足許のドル高地合いはしばらく継続すると考えている。ユーロ相場で注目が集まるのが強力なサポートラインとして意識されている1.05ちょうどを下抜けるかどうか。同水準を下抜けた場合、加速度的に下落するリスクもあるため、注意が必要だろう。
森谷	1.0200 ～ 1.0800	イタリア国民投票では否決が優勢とされており、ユーロ圏の政治リスクの高まりからユーロ売りが進行しやすいだろう。また、ECBの緩和スタンス継続が予想される一方で、FOMCでは利上げが確実視されている状況。政治・金融政策の両面からユーロ売りが進行しやすい展開を予想する。
鶴田	1.0300 ～ 1.0800	米12月利上げが確実視される中、ユーロ圏の政治的リスクが意識される格好からドル買いユーロ売りの展開を予想。米12月利上げによりドルが強含む中、ユーロ圏ではイタリア国民投票などの政治的イベントを控えている。ポピュリズムの台頭が意識される中、リスクオフの姿勢からユーロ売りが進むだろう。

英ポンド相場

予想レンジ:

GBP/USD 1.1800 ~ 1.2600
GBP/JPY 130.00 ~ 146.00

欧州資金部 山本 泰平

■ 先月の為替相場

11月のポンド/ドルはもみ合う展開。1.22台前半でオープンし、私用メール問題の再燃を背景に、米世論調査でトランプ氏支持率がクリントン氏を上回ると、不透明感が浮上。一方、英10月建設業PMI(結果:52.6、予想:51.8)が7カ月ぶりの高水準へ上昇し、英10月サービスPMI(結果:54.5、予想:52.5)が改善を示すと、英米間のリスクセンチメントの差から、ポンド/ドルは1.2365まで上昇。さらに英高等法院が議会承認無しにリスボン条約50条を発動することは認めない判断を下し、ハード・ブレグジット懸念がやわらいだことや、英中銀金融政策委員会議事要旨で、許容できるインフレ率の上昇には限度があるとインフレ率の動向次第で次の金融政策変更が利上げになる可能性が示唆されると、10月7日(フラッシュ・クラッシュ現象当日)来の高値(1.2558)まで上伸。その後、クリントン氏のメール再捜査が打ち切られると同氏支持率が回復し、ドルが買われ、ポンド/ドルは結局1.2352まで反落。斯くして、8日の米大統領選挙では、大方の予想を裏切り共和党のトランプ氏が過半数を超える選挙人を獲得。トランプ氏勝利が確定となった9日、アジア時間に保護主義的政策への懸念から、1.2547までドルがポンドに対し売られるも、欧州勢が参入すると雰囲気は打って変わり、共和党が上下院で多数派を形成しねじれ現象が払拭されたこと等を好感してか、債券売り・株買いの典型的なリスクオン相場に転じ、結局ドルは開票前の水準まで値を戻す。10日、メイ首相とトランプ氏が初電話会談を実施し、英米関係が「非常に重要かつ特別」で、その強化を優先事項と一致すると、Brexitを睨み英米通商交渉が繰り上げられる可能性が浮上。ポンド/ドルは1.2673まで上昇し週末を迎える。越週後は、英政府が50条発動後も手続き取り消しを可能とする法解釈を模索しているとの英紙報道で、再び先行き不透明感が強まる中、英10月CPIが前年比+0.9%と予想の同+1.1%を下回ると、1.2380まで下落。17日、英10月小売売上高が寒冬の影響から衣料品好調となり前年比+7.4%(予想:+5.3%)と14年ぶりの伸びを示すと、一時1.2507まで買い戻されるも、米FRB議長証言を受け利上げ期待が強まると、ドル指数が13年半ぶりの高値を更新し、結局1.2302まで下落。21日の週は、メイ首相がEUとの暫定合意を結び、2年間の離脱交渉後も新たな通商関係を構築する時間的猶予を確保すると発言したことや、英予算演説で今後5年間の借入れ予定額を1220億ポンド引き上げ、財政支援期待が浮上したことから、ポンドは再度1.25付近まで買い戻された。

■ 今月の見通し

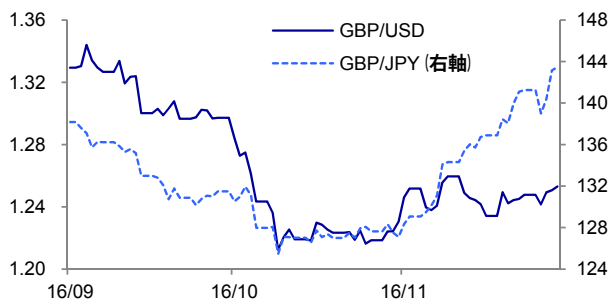
12月のポンド/ドル相場は上値重い展開を予想する。12月末にIMFから外貨準備の通貨別構成割合が公表されるが、英国は格付機関から各国中銀の外準の内、ポンドの占める割合が3%を下回れば、格下げの正統な理由となると警告されていることから、注目を集めるだろう。Brexitを巡っては、引き続き不透明な政局が継続するだろう。12月5日は、50条発動の首相権限を最高裁が判断する予定だか、判事は「包括的な」法整備が必要になると述べており、判決が最大2年遅延する可能性が伝わっている。50条発動後も、英政府は議会採決によって手続きを取り消すことを可能とする法解釈を模索しているとの報道もあり、そのような解釈が仮に可能であるとするならば、もはや将来を見通すことなど不可能に近い。国のかたちが定まらなければ、英投資意欲減退を誘い、正式なEU離脱を待たずして、欧州大陸に拠点を移す企業が増加するだろう。一部調査では、国民投票後、655億ポンドの投資が中止・延期となったことが伝わっている。英国では過去5年間に企業利益が8割減少したにも関わらず、FTSE100指数は3割上昇しており、足許の株価は身の丈に合っていない。今後、企業の撤退とともに売り圧力にさらされるリスクは拭えない。英政府の真意は知り得ないが、賛否の狭間で反対派を納得させつつ離脱手続きを開始するための妥協案を検討するほど、英政府は選択に迷っていることが想像できる。先月、15日には、英紙報道で「Brexit Update」なる政府文書(11月7日発行)がリークされたが、Brexitに際し500個のプロジェクトと、3万人のスタッフが必要となり、人材の確保・費用の捻出すら目途がたっていない様子。さらに、交渉事項の調整に少なくとも6か月は要し、離脱手続き開始が2017年3月に間に合わない公算で、ジョンソン外相を筆頭とする移民制限優先派と、ハモンド財務相を筆頭とする単一市場優先派に分断されてしまっていることも示されている。政府が進もうとする道筋が全く定まらない中、50条の発動でもたつけば、EU離脱の断固履行を至上命題としてきたメイ内閣は、存在意義を失うだろう。ブックメーカーのオッズ(Paddy Power、11月末時点)では、2017年中に解散総選挙が実施される確率と50条が発動されない確率が、それぞれが46%、28%で取引されている。英国にとってBrexitは終わりの見えないやっかいな課題であり、政府の牽引力も脆弱であることから、ポンドの一段の下落を見込む。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のスイーツ事情』
英国ではチョコレートが、国民レベルで愛されています。固形チョコは英国人によって発明されたお菓子なので、チョコレートの歴史の長さで英国の右に出る国はありません。チョコ業界は、各社ひしめき合っていますが最大手は1824年創業のCadbury社です。創業者のJohn Cadburyは飲み物であったチョコを固形とした革命者と伝えられ、その貢献から、Cadbury一族は女王陛下から勲爵士の称号である「Sir」の荣誉を受けています。ちなみに映画「チャーリーとチョコレート工場」は、Cadburyをモチーフとしたと言われています。Cadburyは名実ともに英国のチョコレートを代表しています。ところが2009年、業界に衝撃が走りました。米社に買収を提示されたのです。しかも、敵対的買収であったため、メディアで取り上げられ反米感情を煽りました。結局、Cadburyは買収され英Cadbury社は米系となりました。筆者は当時、渦中の創業一族・Sir Cadburyの講演に出席しましたが、涙ながらに後悔を語っていたことを覚えています。複雑な英米間の軋轢がチョコレートの歴史にもあるようです。ともあれ、誕生した米系Cadburyですが、意外(?)にも順調に英国内の売り上げを伸ばしています。英老舗に米系の文化が新たに加わったことで、これまでの主力商品(ミルク・チョコレート)に加え、エッグ型チョコ、ビスケット入りチョコ等、様々な商品が矢継ぎ早に生まれました。英国国民も手のひらを返し、新Cadburyを楽しんでいるようです。何はともあれ、英国人的にはCadburyチョコレート無しの生活は、あり得ないのでしょうか。最後に観光情報を付け加えておきます。Cadbury本社では、チョコレート・ミュージアム「Cadbury World」が併設されています。ご興味のある方は足を運び、「チャーリーとチョコレート工場」の世界観を探訪してみたいかがでしょう。

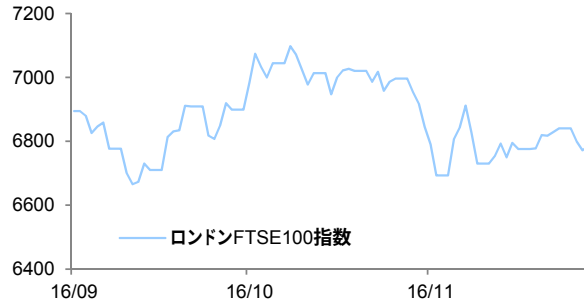
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	製造業PMI	10月	54.5%	54.3%	55.5%
11/2	建設業PMI	10月	51.8%	52.6%	52.3%
11/3	サービス業PMI	10月	52.5%	54.5%	52.6%
11/8	鉱工業生産(前年比)	9月	0.8%	0.3%	0.7%
11/8	製造業生産(前年比)	9月	-0.1%	0.2%	0.5%
11/15	消費者物価指数(前年比)	10月	1.1%	0.9%	1.0%
11/16	ILO失業率	9月	4.9%	4.8%	4.9%
11/17	小売売上高(含自動車前年比)	10月	5.3%	7.4%	4.1%
11/25	GDP(前年比)	3Q	2.3%	2.3%	2.3%

豪ドル相場

予想レンジ:

AUD/USD 0.7250 ~ 0.7600
AUD/JPY 80.00 ~ 86.00

シドニー支店 山口 美紀

■ 先月の為替相場

11月の豪ドルは下落。

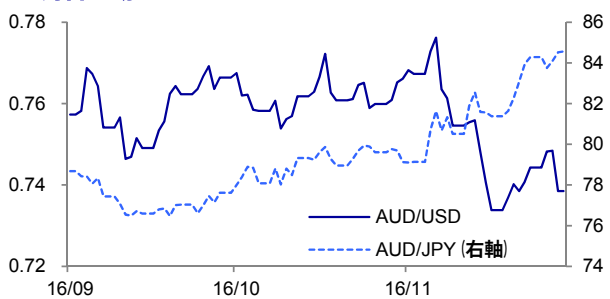
1日、豪ドルは0.76ちょうど近辺でスタート。注目の豪州準備銀行(RBA)理事会にて、政策金利は据え置かれ、更にRBA声明文は前回分をほぼ踏襲する内容となり、追加緩和に関するヒントが得られなかったことから、豪ドルは0.76台後半に上昇。翌日、FOMCでは予想通り政策金利が据え置かれたため、豪ドルへの影響は限定的。4日、RBA四半期金融政策報告書では経済成長率及びインフレ見通しが前回8月分とほぼ同一の内容だったことから、豪ドルは引き続き0.76台での推移が続いた。翌週、8日の米大統領選を控えて、FBIがクリントン氏の私用メール問題の訴追を求めずと発表し、クリントン氏勝利を見込んだリスク選好の動きが強まり、豪ドルは0.77台に浮上。8日、米大統領選開票直前には高値0.7778を付けた。翌日投票結果が次第に明らかになり、トランプ氏が優勢になるにつれて、リスク回避の動きが強まり、豪ドルは一時0.7580まで急落。しかしその後、今までのトランプ氏の過激な発言と比較するとともだったトランプ氏勝利宣言を受けて、リスク回避の動きが後退し、リスクオンとなり、豪ドルも再び0.77台に浮上した。

10日、トランプ氏の経済政策(トランプノミクス)における財政支出拡大への期待の高まりから、米債利回りは急上昇。為替市場ではドル買いが進行し、豪ドルは0.75台に急落。その後も、米債利回り上昇・ドル買い継続により、豪ドルは0.75台で上値重く推移した。16日、FED高官のタカ派(金融引締積極派)な発言や、トランプ氏の政策チームの「インフラ投資銀行」創設の報道よりドルが上昇し、豪ドルは節目0.75割れに下落。翌日、イエレンFRB議長が「比較的早期に利上げをする可能性がある」と示し、豪ドルは0.74割れ。18日には、米短期金利先物金融市場において、12月の利上げ織り込みが96%まで進み、ドル買い進行。豪ドルは0.73台前半まで値を下げた。

21日、先週の流れを継続して、豪ドルは安値0.7311を付けた。その後、約5か月ぶりの安値水準では値ごろ感もあり、豪ドル買いが入り、豪ドルは0.74台に反発した。

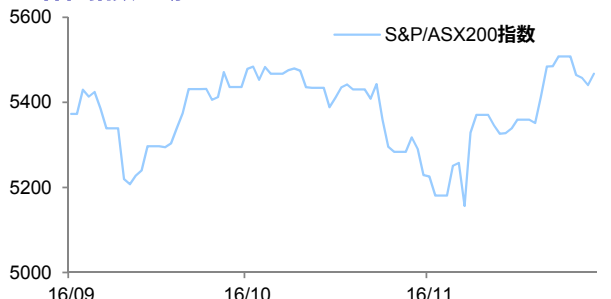
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

朝ごはんがアイスクリームでもOKと言うほどの甘いものの好きの私にとっては、大変嬉しいテーマです。スイーツは別腹！

オーストラリアの代表スイーツと言えば、ラミントン(スポンジケーキの表面にチョコレートソースを染み込ませ、さらに細かく削ったココナッツがまぶされているもの。見た目ほど甘くないので食べやすい?)、パブロワ(メレンゲに糖焼き上げたお菓子里にクリームやフルーツで飾りつけたもの。サクサクした部分と、クリームやフルーツの水分をしみこんでしっとりした部分の食感がたまらない?)、ティムタム(ティムタムの両端をかじり、一方のかじった方をコーヒーに浸す。コーヒーに浸してない方を口に咥えて、ストローのように、ティムタムからコーヒーを吸う。あまり長い間、コーヒーに浸していると、チョコレートがどろどろに溶けてしまうので注意!)。

他にも、オーストラリアワインの甘口もスイーツに分類されるのではないだろうか。特に、デザートワインのSticky(スティッキー)。スティッキーとは、ワインの甘美な粘り気を指す言葉で、口内の中でとろりと流れる蜂蜜のような口当たりを表しています。フルーツと一緒に、またはブルーチーズやソフトチーズとの相性も抜群な気がします。また、オーストラリアでは、小腹が減ったらスイーツではなくナッツです。ハワイを思い浮かべがちですが、マカダミアナッツはオーストラリア産、他にも色々な種類のナッツやオーガニックものが揃っています。

最後に、変化球(フォーク)！オペラハウスに隣接するオペラキッチン Opera Kitchen Tasting Plate！見た目はハイティー風の3段のケーキスタンドですが、プレートに載っているのはサンドイッチやスイーツではなく、オーギービーフのハンバーガー、オーギーが大好きなチップス、飲茶、お寿司。これがオーストラリア流ハイティー？甘いものが苦手な方もこれなら楽しめるハズ！

■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	RBA政策金利		1.50%	1.50%	1.50%
11/3	貿易収支	9月	▲\$1700M	▲\$1227M	▲\$1894M
11/4	RBA四半期金融政策報告書				
11/4	小売売上高	9月	0.4%	0.6%	0.5%
11/10	住宅ローン	9月	▲1.6%	1.6%	▲2.7%
11/15	RBA議事録				
11/17	雇用者数	10月	16.0千人	9.8千人	▲29.0千人
11/17	失業率	10月	5.7%	5.6%	5.6%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3150 ~ 1.3660
CAD/JPY 80.30 ~ 88.80

米州資金部 光野 由貴宏

■ 先月の為替相場

11月のドル/カナダドルは、月中にかけて上昇する場面もあったが、概ね1.34台を挟んでのレンジ内での推移。
ドル/カナダドルは1.3410でオープン。OPEC会合での減産合意期待が、産油国の協調生産調整に向けた取り組みへの懐疑的な見方が一層強まったことで、ドル/カナダドルは1.3427まで上昇。その後は、カナダ8月GDPが予想と一致し、これを受けたカナダドルの反応は限定的となる一方、クリントン氏の私用メール問題が再調査されることになったことで、ドル売りが強まりドル/カナダドルは1.3353まで反落。カナダ10月雇用統計は、雇用ネット変化率が予想を大きく上回ったものの、パートタイムが大きく増えていることが増加の要因となっていたことが嫌気され、ドル/カナダドルは1.3466まで上昇。米大統領選前の世論調査などでクリントン氏の当選確率が高いとの見方から、リスク志向が強まり、ドル/カナダドルは安値の1.3265まで下落。しかし市場の予想に反しトランプ氏が当選となるとドル/カナダドルは1.3525まで上昇。一旦1.3345まで反落するが、トランプ氏が次期大統領になることで、NAFTAの見直しの可能性があることや、12月のカナダ中銀の利下げの確率が20%から33%に上昇したとの記事もあり、1.3509まで上昇。その後、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数が予想を上回ったことからドル買いが強まり、ドル/カナダドルは1.3548まで上昇。
トランプ政権下では米インフレ率が高まるとの見方からドル買いが継続し、ドル/カナダドルは高値の1.3589まで上昇。翌日になると今月末のOPEC会合で、減産合意に対する期待が強まり、原油相場が上昇する展開に、ドル/カナダドルは1.3405まで反落。カナダ10月CPIコアが予想を若干下回ったものの、ヘッドラインが予想と一致したことや、1.3500の大きなオプションカットが意識され、1.3494まで反落。
月末のドル/カナダドル相場は、11月30日に行われるOPEC総会での減産期待などを背景にWTI原油が49ドル台まで上昇すると、1.3378まで下落。その後、発表されたカナダ9月小売売上高(前月比)は予想同水準となり、前回値が上方修正されたが、小売(除自動車/前月比)が予想を大きく下回ったことや、米10月耐久財受注、米11月ミシガン大学消費者マインドが予想を上回ると、1.3517まで上昇。OPEC減産期待でWTI原油が急伸したことからドル/カナダドルは1.3369まで下落。発表されたカナダ9月GDPは予想を上回るが、米長期金利が2.38台まで上昇すると、ドル買いが強まり、1.3437まで値を戻し、クローズした。

■ 今月の見通し

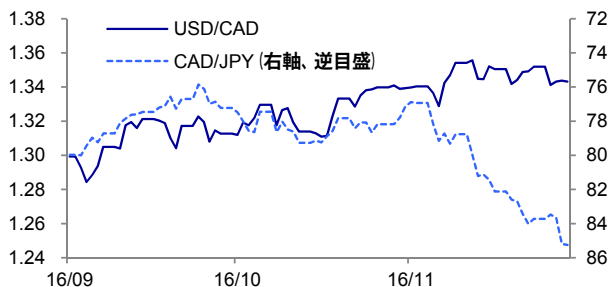
今月のドル/カナダドル相場はじり高な推移を予想。
11月米雇用統計、クリントンの投票再集計要請、イタリア国民投票など多数イベントを控えているが、いずれも夏終盤から続いているドル買いを軸にした上昇基調を覆す材料とはならないと予想。次回FOMC利上げがほぼ確実視されており、非農業部門雇用者数変化が市場予想である180kを大きく下回らない限り影響は限定的となる見込み。投票再集計要請はトランプ相場に一時水を差す形となったが、ペンシルベニアを含む3州の結果がすべてひっくり返るとは考えずらく、引き続きドル買いカナダドル売りが優勢な展開となるであろう。なおトランプ閣僚人事は特段大きなサプライズ無く進んでおり、人選プロセスはよほどのことが無い限りリスク要因にはならないと予想。またトランプ次期大統領の発言通りNAFTAの見直しが行われれば、輸出の大部分を米国に頼るカナダにとっては大きな痛手となるであろう。以上のことを踏まえると、トランプ当選後の米金利上昇、ドル買いの流れが続くであろう。
一方で、11月30日に行われたOPEC総会で日量120万バレルの減産合意、サウジからイランへの減産特別配慮、生産調整に協力的であったロシアなど非OPEC加盟国へ日量60万バレルの減産を求める見通しなどが好感し、WTI原油が50ドル付近まで上昇。この上昇でのカナダドル買いは限定的となったが、減産を背景にWTI原油が堅調な推移となれば、少なからずドル/カナダドルの上値を抑える要因となるであろう。また、良好な米経済見通しを受けて、ボラティリティが低下したこともカナダドルにとっては多少追い風になる。
全体的にドル買い優勢の展開が続くと思われるが、一方的なドル買い相場とはならず、ドル/カナダドルはじり高なレンジ推移を想定する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のスイーツ事情』
やたら甘いだけであまり美味しいイメージのない北米のスイーツですが、私が15年前にこちらに初めて来て受けた印象はその通りでした。トロントのような都会でなく、ロンドンという小さな街でありバラエティーがなかったせいかもしれません。学生だった当時、友人の誕生日パーティーの場で出されたブルーやピンクのアイシングがのったカラフルなケーキ達を今でも良く覚えています。砂糖がちゃんと溶けてないのか口に含むとじゅりじゅりとした触感…そしてスポンジは食べているうちに口内の水分を全て吸い取るという、ショッキングな代物。ただ、残すことが嫌いなのでコーヒードリで流し込んで頑張って食べた記憶があります。近年はそういった派手なアイシングのケーキを食べる機会は減りましたが、その存在は今でもスーパーマーケットなどで確認することができます。彩色に関してはパワーアップしているかもしれません。最近職場近くのスーパーで蛍光色のマカロンが売られているのを目撃しました。どれくらい売れるのか少し気になるところです。こんな話をしているとカナダには美味しいスイーツが全く無いように誤解されそうですが、トロントには美味しいお菓子/ケーキ屋さんがそこそこあります。数件店舗を抱えるPrairieGirlはアイシングが美味しいカップケーキ屋さんで、誕生日やお祝い、お土産として金融街の人達にとっても人気です。ただレギュラーサイズをまるまる食べると胸焼けがするのでミニサイズを購入することをお勧めします。甘さ控えめで美味しく気取らないパイだったらKensington marketのWanda's Pie in the Skyに寄ってみて下さい。種類が豊富で、感謝祭の頃に出回るパンプキンパイはとて美味しいと評判です。BayviewのRahier PatisserieやThePATHにあるNadègeでは日本人に馴染みの深い繊細でエレガントなケーキや焼き菓子が食べれます。アーモンドクリームのクロワッサンがとて美味しかった記憶があります。トロントに来た際は是非一度足を運んではいかがでしょうか。(那須 紘子)

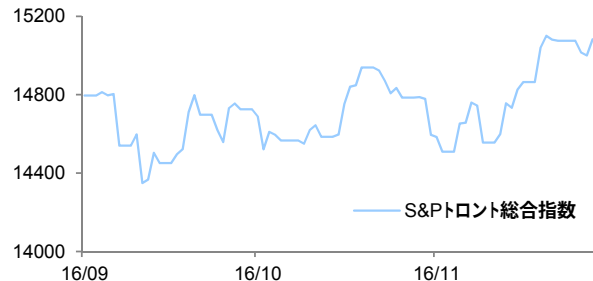
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	GDP (前月比)	8月	0.2%	0.2%	0.4%r
11/1	RBCカナダ製造業PMI	10月		51.1	50.3
11/4	失業率	10月	7.0%	7.0%	7.0%
11/4	雇用ネット変化率	10月	-15.0k	43.9k	67.2k
11/8	住宅着工件数	10月	195.0k	192.9k	219.4kr
11/18	CPI季調前 (前月比)	10月	0.2%	0.2%	0.1%
11/18	消費者物価指数 (前年比)	10月	1.5%	1.5%	1.3%
11/22	小売売上高 (前月比)	9月	0.6%	0.6%	0.1%r
11/30	GDP (前月比)	9月	0.1%	0.3%	0.2%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1140	~	1220
KRW/JPY	9.26	~	10.10
JPY/KRW	9.90	~	10.80

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 山口 智裕

■ 先月の為替相場

11月のドル/ウォンは、米大統領選後のドル高を受けて上昇した。

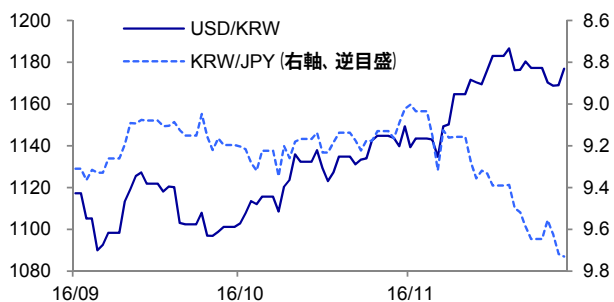
米大統領選前8日までのドル/ウォンは、下落。31日に米連邦捜査局(FBI)がクリントン大統領候補の電子メール私的利用問題の捜査を再開したとの報道が見られる中、月初1日のドル/ウォンは1143.0で取引を開始。海外時間にワシントンポスト/ABCが米大統領選に関する世論調査でトランプ氏がクリントン氏の支持率を逆転した、と報道したことを受けて「トランプリスク」が意識され、2日のドル/ウォンは1152台まで上昇した。しかし、同日海外時間のFOMCでは市場予想通り政策金利が据え置かれ、文言微調整以外は特段の波乱なく通過したことや、7日にはFBIのコミー長官が、クリントン氏のメール問題に関し犯罪に該当しないとの結論に変わりない、と発言したことを受けて、大統領選でクリントン氏が優勢との見方が再度広がる中、ドル/ウォンが大統領選にかけて下落した。

米大統領選後のドル/ウォンは、大幅上昇。韓国時間9日の米大統領選の暫定結果発表で、激戦区とされたオハイオ州、フロリダ州でクリントン氏がリードしていると報じられる中、ドル/ウォンは月安値となる前月比▲15.8ウォン高の1128.7まで下落。しかし、開票が進みトランプ氏の優勢が明らかとなったことを受けて、ドル/円が一旦大幅下落する中、ドル/ウォンが大幅反発した。トランプ次期大統領の勝利演説後もインフラ投資や減税など、拡張的財政政策に注目が集まる中、米金利が大幅上昇。17日にはイエレンFRB議長が「利上げが早期に必要な可能性がある」と発言したこともドルの上昇をサポートし、ドル/ウォンは上げ幅を拡大した。20日に韓国検察が朴大統領がチェスンシル容疑者を含む3人と共謀したとの見解を示したことを受けて、21日に議会野党が朴大統領の弾劾決議を具体的に検討すると発言するなど政治不安が一段と高まった。また、韓国20年国債入札が不調な結果となる中、ドル/ウォンは21日に月高値となる+42.5ウォン安の1187.0まで上昇した。

月下旬のドル/ウォンは上昇が一服。21日には韓国銀行が2008年以来初めて国債買い入れオペを実施し、金利安定化を図ったことや、22日朝方の福島沖地震を受けてドル/円の上昇が一服する中、ドル/ウォンの上昇も一服した。また、米金利の上昇も一旦落ち着いたことから、ドル/ウォンは上げ幅を縮小し、前月末比+24.6ウォン安の1169.1で引けた。

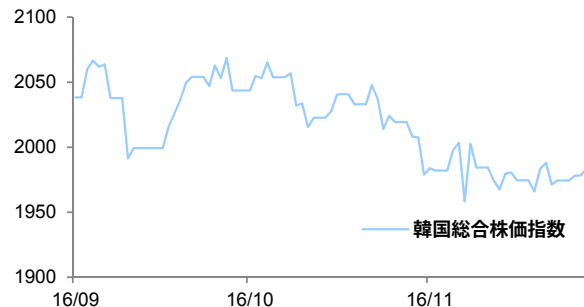
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	消費者物価指数(前年比)	10月	1.10%	1.30%	1.20%
11/1	輸出(前年比)	10月	-3.10%	-3.20%	-5.90%
11/1	輸入(前年比)	10月	-4.40%	-5.40%	-2.30%
11/1	貿易収支	10月	\$7235m	\$7161m	\$7105m
11/1	日経韓国製造業PMI	10月	--	48.0	47.6
11/9	失業率(季調済)	10月	4.00%	3.70%	4.00%
11/11	韓国銀行7日間レポレート		1.25%	1.25%	1.25%
11/18	PPI 前年比	10月	--	-0.20%	-1.10%
11/25	消費者信頼感	11月	--	95.8	101.9
11/30	鉱工業生産(前年比)	10月	-1.30%	-1.60%	-2.00%

台湾ドル相場

予想レンジ:

USD/TWD	31.25	~	32.50
TWD/JPY	3.36	~	3.70

台北資金室 辻野 順治

■ 先月の為替相場

11月のドル/台湾ドル相場は、トランプ氏の米大統領選勝利が結果的にドル高材料となったことで、台湾ドル安となった。

11月のドル/台湾ドル相場は、31.50台後半でオープン。月初は、FOMCがあったものの、米大統領選を翌週に控えるタイミングでの不透明感が材料となり、ドル安の動き。但し、1,2日は、台湾株式の下落も重なったことで、31.50台での推移となった。3日は、一段のドル安に反応し、31.40台へ台湾ドル高が進行。4日は、米10月雇用統計発表を控え、31.40台で一進一退。7日は、FBIがクリントン氏のメール問題を訴追しないとの方針が伝わり、ドルが反発。31.50台へ台湾ドル安が進行。8日は同水準で膠着。9日、米大統領選の開票が進むとともにトランプ氏優位が確認されると、ドルが急落。一旦は、台湾株式も大きく下落したことで、31.50台後半へ台湾ドル安となったものの、市場が落ち着くとともに、台湾ドル高に転じ、結局は31.40台へと値を戻した。

10日は、トランプ次期大統領の政策への期待からドル高が進行。台湾株式の上昇もあり動きは鈍かったものの、31.60台へ。11日は、他の新興国とともに株式が下落に転じたことで、台湾ドル安が加速し、31.80付近での取引となった。14～17日は、ドル高が続く一方で、台湾株式も持ち直したことで、台湾ドルの動きは鈍り、31.80台を中心として一進一退。18日には、前日のイエレンFRB議長の議会証言を受け、ドルが一段と上昇。32.00付近での取引となった。

21日から25日の週は、ドル高の一方で台湾株式も上昇したことで、台湾ドル安要因、台湾ドル高要因が交錯し、31.80～32.00の範囲で一進一退。28日は、OPEC総会を控え、ドル買いポジションを見直す動きが見られ、ドル安台湾ドル高の動き。31.70台へと台湾ドルが反発したが、結局、30日には31.80台に戻し、31台後半で方向感の無い動きが続いた。

■ 今月の見通し

12月のドル/台湾ドル相場は、小幅台湾ドル安の展開を見込む。

台湾10月経済指標は、9月と同様に鉱工業生産、輸出受注の鈍化が継続。牽引役であった半導体の季節要因の一巡が背景と見られ、先行きを楽観出来ない状況が続いている。今月は台湾中銀の定例会合が予定されているが、政策金利を引き上げる環境が整っているとは言えず、9月に続き、据え置きを見込む。なお、台湾株式市場では、加権指数は高値圏を維持しているものの、先月売り越しに転じた外国人投資家資金は、売り越しが拡大し、972億台湾ドルの流出となった。

今月の台湾ドル相場は、引き続きドル次第の状況が続く見込み。トランプ氏勝利後のドル高自体が想定外な中で、ドルの方向感は読みにくく、市場の雰囲気次第と言えるだろう。その中で、注意が必要なのは、米経済統計、イタリア国民投票、FOMCなど。ドル高は米経済に悪影響なのだが、ISM製造業景気指数などで何らかの兆候が確認されるのか注目が集まる。また、イタリア国民投票も心理面での悪材料とならないか心配なところ。加えて、FOMCも、現状の金利やインフレ期待上昇に対して、最新のFOMCメンバーの金利、物価見通しが平仄の取れた内容となるのかも意識されるところだ。

台湾ドルの動きとしては、一段のドル高時には台湾ドル安が進みやすく、ドル安時には、31台前半までの動きに留まる展開を想定する。11月中旬以降、台湾ドル安が進んだものの、他の新興国と比べれば、下落率は小さい部類に属する。背景としては、米金利上昇に及ばないものの、相応に台湾の中長期金利が上昇していることが挙げられる。一方で、11月中旬には、5年スワップは、3か月毎に連続して台湾中銀が利上げをしないと整合性が取れない水準まで金利が上昇しており、11月下旬からは、米金利上昇の一方で、台湾ドル金利も低下する場面も見られ始めた。そのため、今後更なる米金利上昇、ドル高の局面では、台湾ドル金利上昇の頭打ちによる金利差拡大から台湾ドル安が進みやすくなるだろう。逆に、米金利低下、米ドル安の局面では、台湾ドル金利も素直に低下することで、台湾ドル高の動きも鈍り、31台前半までの動きを想定する。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

ここ数年、台湾定番スイーツが日本に進出し、認知度は高まっているかと思います。日本でも食べられるようになったパイナップルケーキ、タピオカミルクティー、カキ氷は、台湾でも地元の人から人気がある店です。これら定番スイーツ以外を挙げるなら、豆花、湯圓です。

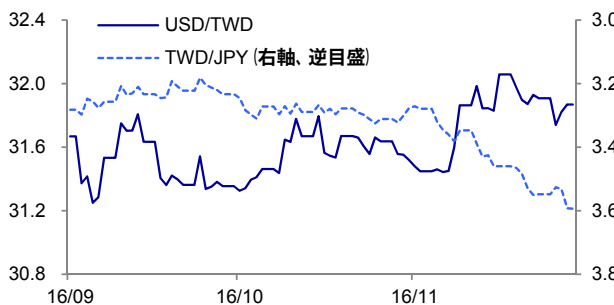
豆花は、柔らかい豆腐がお椀にどかっとなっており、そこにトッピングします。アズキなどもありますが、イチゴやマンゴーでトッピングする店もあります。個人的にはフルーツトッピングのほうが好きで好みます。(ネットで調べてみると、豆花の店も昨年、東京で開店しているようです。)

湯圓は、お汁粉のようなもので、アズキ汁に小ぶりの餅が入っています。また、定番のお汁粉以外にも色々、選べます。冷たいお汁粉(お汁粉にカキ氷を投入)も夏には美味しいです。また、トッピングも豊富で、私がよく行く店ではアズキ汁をベースにトッピングを3つ選べます。餅も、芋や南瓜をベースにしたものがあったり、タピオカ、ピーナッツ、芋など色々あります。(これらの店は中国語が話せない注文に困ります。以前もこの欄で記載しましたが、メニューを写真で撮って指指する方法がお勧めです。)

その他、日本のスイーツも手軽に食べられます。小樽のチーズケーキ屋は日本だと北海道内にしか店舗が無いのですが、台北には店舗があります。また和菓子、抹茶スイーツ、ドーナツチェーンの店もあり、駐在員にはありがたいです。

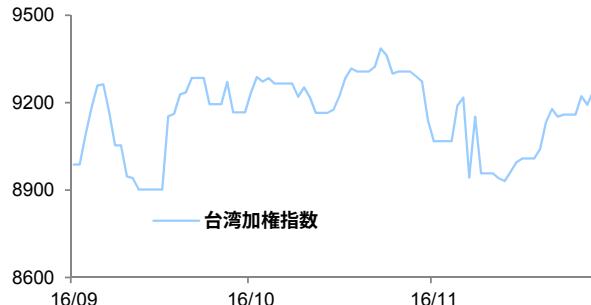
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/7	輸出 (前年比)	10月	1.90%	9.40%	-1.80%
11/7	輸入 (前年比)	10月	5.00%	19.50%	0.70%
11/8	CPI (前年比)	10月	0.48%	1.70%	0.33%
11/21	輸出受注 (前年比)	10月	3.70%	0.30%	3.90%
11/22	失業率	10月	3.92%	3.90%	3.93%
11/23	鉱工業生産 (前年比)	10月	5.30%	3.70%	5.02%
11/25	GDP (前年比)	3Q	2.10%	2.03%	2.06%

香港ドル相場

予想レンジ:

USD/HKD 7.7500 ~ 7.7650
HKD/JPY 14.17 ~ 14.83

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【11月の香港ドル直物相場】

トランプ氏の勝利を受けたドル円上昇にも拘らず、米ドル／香港ドルは概ね7.754から7.760の狭いレンジ内で推移した。米ドル金利と香港ドル金利の金利差が安定して推移する中、資金流出圧力が高まらない一方で、人民元安の加速による中国本土からの資金流入が香港ドルを下支えする格好となった。米ドル／香港ドルフォワード1年物は、一時6月以来のゼロ水準まで上昇。市場参加者の米ドルに対する先高感が強まる中、米ドル売り香港ドル買いフローが減少したことが要因と考えられる。

【11月の香港ドル金利市場】

指標金利である香港ドルHIBOR3か月物は、2月以来の高水準となる0.66%まで上昇。トランプ氏の勝利後のFRB利上げペースの加速期待などによる、米ドルLIBOR3か月物の上昇と連動した動きになっており、香港ドルHIBORと米ドルLIBORの金利差は▲0.26%程度と前月対比ほぼ変わらずの水準となった。インターバンク市場における流動性を図る指標である香港金融管理局(HKMA)の当座預金残高は2,600億香港ドルと、引続き潤沢な状況が継続。香港ドルスワップ金利は、米ドルスワップ金利に追随する形で上昇。香港ドルスワップ金利の2年物と10年物の金利差は、10月の60bpから90bpに拡大した。一方、米国のインフレ圧力の高まりから米ドルスワップ金利の上昇幅が大きく、香港ドルスワップ金利と米ドルスワップ金利の5年物の金利差は▲16bpから▲30bpに拡大した。

【11月の香港株式市場】

ハンセン指数はトランプ氏勝利後に値を戻し、22,000を超えて推移。米国株式は直近高値を更新し、中国上海総合指数も1月の急落後は上昇基調を継続しており、ハンセン指数も11月前半の下落幅を徐々に埋めている。人民元安の流れが強まる中、上海から香港への資金流入が増加し、一日の投資限度額の利用率が10月の5%から10%程度まで上昇した。コモディティセクターは、トランプ氏の積極的な財政政策が引き起こすインフレ圧力の高まりから上昇する一方、不動産セクターはFRBの利上げペースの加速期待などにより下押しされる展開となった。

■ 今月の見通し

【12月の香港ドル直物相場】

米ドル／香港ドルは7.750から7.7650と、前月からほぼ同じレンジ内で推移すると見込む。FRBの利上げサイクルにおいて香港ドル金利と米ドル金利の金利差が安定的に推移すれば、香港から米国への資金流出が生じる可能性は低く、香港ドルの急落とはならないだろう。人民元に対する見方がより一層弱気なものとなっている中、中国本土からの資金流入が香港ドルを下支えするのに加え、12月に予定されている深センと香港の株式市場開通に伴い、新たな資金流入も見込まれる状況。仮に、香港ドル金利が高止まりした場合、不動産市場と株式市場は調整し資金流出圧力が高まるため、注意が必要となる。香港ドルフォワード1年物は、FRBの利上げペース加速期待などから香港ドル安方向に向かう可能性も想定するべきだろう。

【12月の香港ドル金利市場】

香港ドル金利は米ドル金利の上昇に追随するも、緩やかな上昇に留まると見込む。HKMAが為替基金証券の発行ペースを鈍化させたことから、市場からの資金吸収は減少し、香港ドルの短期金利は低位で安定して推移するだろう。香港ドルスワップ金利の上昇は、インフレ圧力上昇の兆候が明らかになるまで、一旦落ち着きを取り戻すと想定。人民元安の流れが継続する中で、中国本土からの資金流入の継続が、総じて金利上昇圧力を抑制すると見込む。

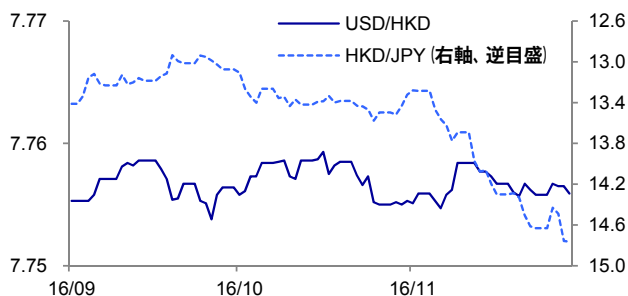
■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

香港で伝統的なスイーツと言えば、「スイーツスープ」。暖かい小豆スープが主流であるが、スイートコーンスープや黒ゴマスープ、アーモンドスープ等様々な種類のスープがある。レストラン以外でも、地場のモンコックやコースウェイバイのデザートショップなどこでも買えるようになっていて、根強い人気となっている。最近では、伝統的なスープ形式ではなく、お椀にフルーツ(マンゴー、イチゴ、スイカ、メロン等)を盛ってスープなしで食べるというスタイルも流行っている模様。元々甘い物好き(紅茶やコーヒー等もほとんどはミルク入り)の香港人であるが、デザートを食べることは単なる食事の締めということだけでなく、家族や友人、恋人と楽しくおしゃべりをするための大切なツールである。香港人にとってスイーツは、人と人との架け橋であり、なくてはならないものであると言える。

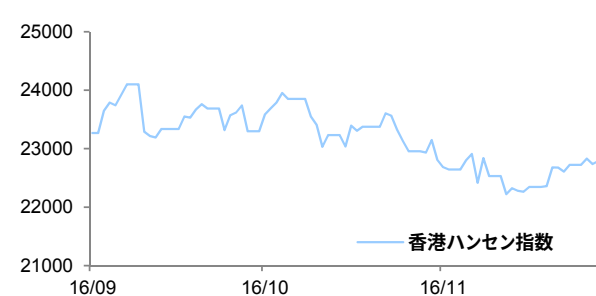
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/3	日経香港PMI	10月	--	48.2	49.3
11/3	小売売上高 (価額、前年比)	9月	-9.0%	-4.1%	-10.5%
11/3	小売売上高 (数量、前年比)	9月	-10.5%	-3.9%	-11.0%
11/7	外貨準備高	10月	--	381.1b	362.5b
11/17	失業率 (季調済)	10月	3.40%	3.40%	3.40%
11/17	総合利率	10月	--	0.25%	0.25%
11/22	CPI(コア)	10月	2.00%	1.20%	2.70%
11/24	輸出 (前年比)	10月	1.80%	-1.80%	3.60%
11/24	輸入 (前年比)	10月	2.60%	0.50%	4.10%
11/24	貿易収支	10月	-35.3b	-37.2b	-39.7b

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.8000	~	7.0500
	CNY/JPY	15.32	~	17.06
	100JPY/CNY	5.8600	~	6.4600

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 上城戸 千尋

■ 先月の為替相場

【為替相場】

11月のドル/人民元相場は米大統領選後のドル高を背景に人民元安方向へ大きく進み、先月に引き続き年初来の安値を更新した。月初、ドル/人民元実勢相場は6.76台半ばでオープン。8日に米大統領選挙を控え、クリントン氏優勢ならドル高、トランプ氏優勢ならドル安でマーケットは反応。そのため、月初はクリントン氏の私的メール利用問題の再燃からドル安となり、ドル/人民元も人民元高方向へ推移。しかしその後、メール利用に関して問題ないとの見方がFBIより示されると、マーケットはクリントン氏勝利を織り込んでいき、ドル/人民元は6.78台前半まで人民元安方向へ推移。9日、米大統領選挙の開票作業が進むにつれトランプ氏優勢が判明し、当初想定通りリスクオフの動きとなりドル安、株安で反応。しかし、その後は議会のねじれ解消が好感されたほか、トランプ氏の政策に対する期待が先行しドル高の展開。人民銀行(PBoC)仲値は連日ドル高人民元安水準で設定され、実勢相場も連日人民元安方向へ推移。当局による介入と思しき大口のドル売り人民元買いが入る場面も見られたが流れは変わらず、意識されていたリーマンショック後の水準6.8~6.83を難なく上げた。23日に発表された米経済指標が市場予想を大きく上回る結果となると、米景気拡大への期待感や年内利上げ観測の高まりからドルが一段と上昇。翌24日のPBoC仲値は2008年6月以来となる6.9台に設定、実勢相場は6.92台までドル高人民元安が進行。その後もドル/人民元は6.9を超える人民元安水準で推移した。

【金利相場】

連日ネットで資金吸収となった場面や納税資金、月越えの資金調達ニーズの高まりから流動性がタイトとなる場面も見られ、SHIBORも若干上昇した。上旬はネットで資金吸収となり、大手中資系銀行を中心とした資金放出ニーズが徐々に細り、流動性も若干タイト化。中旬はネットで資金供給となるも、税金の払い込みに伴う資金需要から流動性はタイトな状況が継続し、SHIBORはカーブ全般にわたり緩やかに上昇。16日に中期貸出ファンリティー(MLF)の満期到来に伴い、大手中資系銀行も資金の取り手に回る場面もあった。16日午後には満期分を大きく上回る金額のMLFが実施され、流動性は緩和したが、その後は月末に近づくにつれ再び流動性はタイト化。金利も若干上昇。

■ 今月の見通し

【為替相場】

12月のドル/人民元相場はトランプ氏の政策(減税・インフラ投資、規制緩和等)への期待感や米金利上昇を背景にドル高が継続し、ドル/人民元は人民元安基調での推移が想定される。現在は、12月13・14日のFOMCでの利上げ実施が相場に既に織り込まれている状況。利上げ実施は一時的なドル高要因となり得るが、ドル高の継続要因とはなりにくいと考えられ、引き続きトランプ氏の政策等に注目が集まるだろう。年内は、ドル高の流れを転換させるほどの材料は見当たらず、引き続きドル高を背景にドル/人民元もドル高人民元安方向に推移すると見られる。中国のイベントとして、12月には中央経済工作会议の開催が予定されている。この会議は中国の共産党と政府が年に1度、翌年の経済政策運営の方針を決めるために合同で開く経済関連で最高レベルの会議。成長率等経済運営の目標を議論するが、その具体的な数値は原則、翌年3月の全国人民代表大会で公表されるため、12月中の相場に影響を与えにくい。関連する報道が出れば、人民元相場も振れる可能性がある。当局関係者からは、ドル高相場の中、人民元は他通貨と比べて堅調であるとの発言が出ている。ドルを含め他通貨の動きに左右される人民元だが、引き続き当局は人民元の安定を望む意向が感じられる。

【金利市場】

月末にかけて上昇したSHIBORも月初にはいったん低下していくと思われる。しかし、一部の大手中資系銀行からは既に年末、春節越え資金の手当を始める動きが出てきており、年末に向けて資金需要の高まりから流動性がタイトな状況となり、SHIBORもカーブ全般にわたり上昇することが予想される。

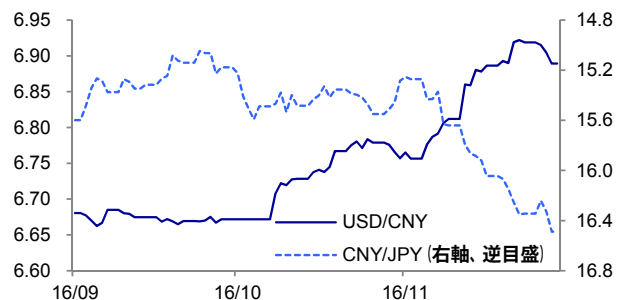
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

中華料理で出てくるデザートといえば杏仁豆腐や胡麻団子を思い浮かべますが、他にも伝統的なスイーツがありますのでご紹介します。まずは“月餅”と呼ばれる、丸い、中に餡が入っている焼き菓子です。旧暦の8月15日にあたる中秋節のときに家族で食べる習慣があります。昔はお供え物として使われていましたが、今は家族で食べるだけでなく、お世話になった方への贈り物として購入することが多く、中秋節のときには街のいたるところで販売されています。地域差があり、中身の餡や、外側の生地はいろいろあります。次に代表的なものは“湯圓”という、中華白玉とも呼ばれることがあるお団子です。中に胡麻餡等が入っており、白玉よりも柔らかめの食感。茹でてあつあつの状態で食べるのが基本的な食べ方です。こちらは旧正月から15日目に家族で食べるのが伝統的ですが、もちろんレストラン等でいつでも食べることができます。伝統的なスイーツで最近も流行っているのがツバメの巣を使ったもので、代表的なのが梨の果肉やクコの実と一緒に温めたものです。お肌に良いだけでなく、免疫力を高める効果があると言われています。もちろん伝統的なスイーツだけでなく、チョコレートやケーキ、マカロンも人気です。日本と違うのは、ドリアンを使ったお菓子も結構人気です。好みが分かれるので、苦手な人は苦手なのですが、中国国内旅行のお土産でもらう機会も多く、私が初めてドリアンを食べたのも、お土産でもらった焼き菓子でした。焼き菓子にしてもあの独特な香りは健在です。

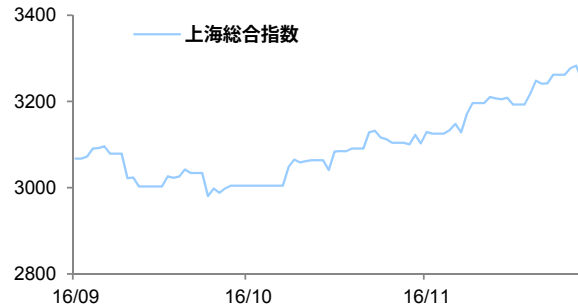
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	製造業PMI	10月	50.3	51.2	50.4
11/8	貿易収支(RMB建)	10月	366.61B	325.25B	278.35B
11/8	輸出(RMB建) (前年比)	10月	-0.8%	-3.2%	-5.6%
11/8	輸入(RMB建) (前年比)	10月	5.0%	3.2%	2.2%
11/9	CPI (前年比)	10月	2.1%	2.1%	1.9%
11/9	PPI (前年比)	10月	0.9%	1.2%	0.1%

シンガポールドル相場

予想レンジ:

USD/SGD 1.4050 ~ 1.4400
SGD/JPY 77.50 ~ 80.00

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

■ 先月の為替相場

11月のシンガポールドル(SGD)相場は、予想外の米大統領選結果を受けて新興国市場から資金流出が加速する中、10か月ぶり安値へ急落した。

SGDは月初1.39台前半でオープン後、10月中国製造業PMIが2年ぶり高水準となったことを好感し底堅い推移となった。翌2日のFOMCでは予想通り金利が据え置かれたが、相場への影響は限定的だった。4日にかけては、トランプ氏の支持率がクリントン氏と拮抗してきたことや、クリントン氏の私用メール問題が再燃したことでドル売りが強まり、SGDも1.38台前半まで買われた。同日発表された米10月雇用統計は12月利上げを後押しする内容だったが、大統領選挙を控えて、影響は限定的だった。

翌週は、7日にFBIがクリントン氏の私用メール問題を追訴しない方針を示すと、クリントン氏の勝利を織り込んでドルが上昇。SGDも1.39台前半まで戻した。ところが9日のアジア時間にいよいよ開票結果が報道され始めると、激戦州で次々とトランプ氏が優勢となり、事前予想に反してトランプ氏勝利の可能性が出てきた。思わぬ結果にドルは対主要通貨で急落し、SGDも主要通貨の動きに連動して1.38台後半へ強含んだ。暫くしてついにトランプ氏の勝利が確定したが、ドル売り一巡後は、相場はトランプ氏が掲げる大型財政出動への期待から一転してドル高、株高、米ドル金利上昇の流れとなった。アジア通貨は全面安となり、SGDも9日に1.40、10日に1.41と連日大幅下落。その後もSGD売り圧力は止まらず、途中で数日揉みあう局面はあったものの、2週間に亘って下落は続き、24日には1.43台後半の10か月ぶり安値をつける大相場となった。

24日の米感謝祭休日を過ぎると、投機筋を中心に手仕舞いムードが拡がり、漸くドル高が一服した。この流れの中でSGDは月末にかけて1.42台前半まで反発している。

■ 今月の見通し

12月のシンガポールドル(SGD)相場は、米大統領選後のSGD安が一服し、SGD安値圏でのレンジ取引を予想。しかし、大相場の後であり、依然として波乱含みか。

12月は通常であれば、第1週の米雇用統計を見た後は、徐々にクリスマスに向けて小動きになってゆく。今年は11月米大統領選後に予想外の大相場となったため、12月に入っても波乱含み。いわゆるトランプ相場とは、財政拡大によるインフラ投資が景気回復、インフレ期待の上昇に繋がり、利上げペースが加速するという期待からドルが買われてきた相場だが、トランプ新大統領の政策内容が正式に明らかになるのは来年1月の一般教書演説であり、暫くは不透明なままである。期待先行で一方向的にドルが上昇してきた相場であり、クリスマス休暇前にポジションを手仕舞い動きができれば、ドルが急反落する可能性もある。とはいえ、期待が現実になるか、失望に終わるのかが判明するのは相当先の事で、来年初にかけて期待感を持続すると思われる、ある程度ドルが下落した水準では、ドル買いが入ってくると思われる。よって、SGDは1.40から1.44近辺のSGD安値圏でレンジ取引となりそうだ。

また月半ばのFOMCでは、25bpの利上げがほぼ確実視されているが、最大の注目点は今後の利上げペースである。声明文の表現や、今後の利上げペースについて、どのような手掛かりが得られるかが相場の鍵となるであろう。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

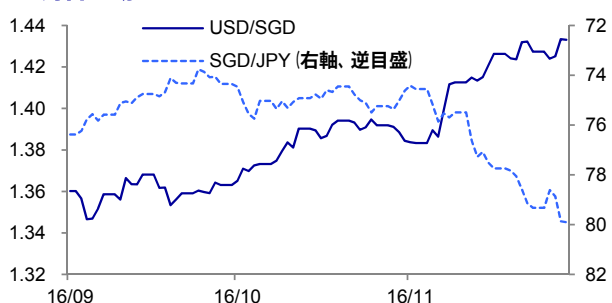
シンガポールは多民族国家のため色々なスイーツがあり、ご紹介したいものが多いですが、思案の末、ここに私の厳選の2品を発表致します。

常夏の当地に欠かせないのが大盛りのかき氷、アイスカチャンです。カチャンとはマレー語で豆の意味で、マレー系、中華系が融合したペラナカンフードです。小豆、亜答子(ニッパ椰子の実)、仙草ゼリー(漢方薬の一種)、チェンドル(米粉とココナツミルクのゼリー)などの上にかき氷を盛り上げ、上からグラマラッカ(マラッカ産黒糖)、ローズヒップなどのシロップをたっぷりかけたもの。こうしてみると、各材料は暑気払いの効能がありそうで、また広域な原産地からは交易港として栄えたシンガポールの歴史がうかがわれます。

中秋節はお月見の行事ですが、食い気優先の当地ではムーンケーキフェスティバルとも呼ばれ、有名ホテルなどが毎年、趣向を凝らしたオリジナル月餅で激しい商戦を繰り広げます。シャンパン入り、生チョコ入りからドリアン入りの雪見大福みたいなものまでありますが、私のお薦めはやはり伝統的な蛋黄蓮蓉(塩漬けアヒルの卵黄入り蓮の実餡)です。皮はしつとりと薄く、餡はねっとり重く、卵の塩味と餡の甘味の調和が絶妙。鉄観音茶が良く合います。日本でお目にかかる月餅とはまったく別のお菓子と考えた方が良いでしょう。当地の月餅は香港と競い合う評判のクオリティ。色々味見して買う楽しみ、将に「花より団子」ならぬ「月より月餅」が恒例となっています。(鈴木教子)

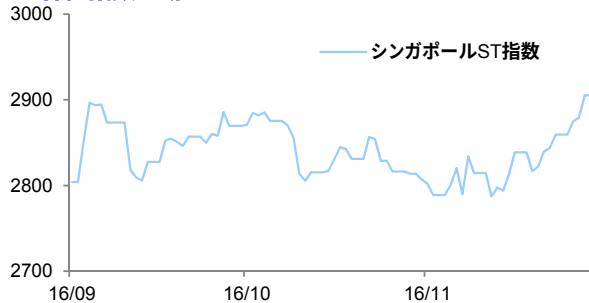
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/2	購買部景気指数	10月	50.2	50	50.1
11/2	電子産業指数	10月	-	50.8	50.3
11/15	小売売上高 (前年比)	9月	2.0%	2.0%	-0.5%
11/17	非石油輸出 (前年比)	10月	-3.0%	-12.0%	-5.0%
11/23	CPI (前年比)	10月	0.0%	-0.1%	-0.2%
11/24	GDP (前年比)	3Q	1.0%	1.1%	0.6%
11/25	鉱工業生産 (前年比)	10月	1.0%	6.7%	0.5%

タイバーツ相場

予想レンジ:

USD/THB 34.90 ~ 36.50
THB/JPY 2.99 ~ 3.38

バンコック資金室 山崎 浩幸

■ 先月の為替相場

●トランプ相場でドル高(バーツ安)進行、他通貨に対してはバーツ高。

11月上旬は、35.00付近での値動きでスタート。8日に行われる米大統領選挙を睨んでの値動きとなるも、クリントン氏のメール私用問題についてFBIが再捜査を行うとのニュースを受け、世論調査でトランプ氏の支持率がクリントン氏に急接近していることが判明すると、米大統領選に対する不透明感の高まりからドル売り圧力が強まりドルバーツは34.90付近まで下落。その後はクリントン氏が支持率が僅差ながらもトランプ氏を上回っていることから、34.95付近で底堅い値動きが続き、前述の私用メール問題に関してクリントン氏にポジティブな報道が出るとドル円でドルが上昇する動きに、ドルバーツも34.90台後半から35.00台半ばまで一時上昇した。

11月中旬は、迎えた米大統領選挙は事前の予想を覆して、トランプ氏が優勢の展開になるとリスクオフが進み一時34.80付近まで下落。しかしながら、トランプ氏の勝利演説や米議会で共和党が上下院で過半数を獲得したことを材料に株高・債券安(利回り上昇)・ドル高のリスクオン相場となった、ドル円が上昇に転じるとその動きにつれてドルバーツは35.00付近まで急速に切り返した。以降もその流れが継続し、時間の経過とともにトランプ氏の政策が市場に好感され、マーケットの方向感が一変しドルバーツは断続的に上昇。10日には一気に35.30近辺まで上昇すると、週明け14日もその勢いが止まらずじりじりと35.50台半ばへ到達。その水準では、米国が保護主義を採るとの見方から輸出の落ち込みが懸念されてか株式市場は軟調に推移したこともあり、以降ドルバーツは35.30~40近辺で揉み合い推移となった。17日のイエレンFRB議長の議会証言を背景に35.40台半ばまで反発。18日もドル買いが継続し一時35.60台まで上昇し35.50台前半での揉み合い推移となった。

11月下旬、21日に発表されたタイ7~9月期GDPが前年比+3.2%増と市場予想(+3.4%)を下回ったものの相場の反応は限定的。その後、35.50を挟んで値動きの荒い展開が続くも、23日には米10月耐久財受注が前月比+4.8%と市場予想(+1.7%)を大幅に上回る結果となったことや、米11月ミシガン大学消費者マインド指数が予想を上回ったことなどを受け米金利が急騰するとドル買い優勢の展開となりドルバーツは一気に35.70台まで上昇した。翌日は米国休場を控えてポジション調整の動きが広がり軟調な展開が続き、35.50台半ばまで下落。29日に米7~9月期GDP改定値の良好な結果を受けて35.70付近まで上昇後、月末日に35.60台半ばへ値を戻した。

■ 今月の見通し

●中旬から下旬にかけてバーツ高進行か

トランプ相場が継続している。11月下旬にかけてポジション調整から、ドルが売られている模様であるもドルバーツの水準が大きく変わらないことから、当面この水準での値動きが続くものと推測される。タイ国内は国王崩御による経済への影響が懸念されている中で、10月タイ自動車販売台数が60,634台(先月:63,641台)、10月タイ貿易収支(通関ベース)は248百万ドル(前回2,546百万ドル)と予想比悪化した経済指標が相次いで発表されており、今後も発表される各種指標や数値に注意する必要がある。一方でバーツ安はタイ国経済、特に輸出環境としてはプラス要因であり、改善する可能性もある。皇太子への王位継承も手続きが進展している状況を踏まえると、国王崩御の影響から少しでも早く脱却したい政府がバーツ安を積極的に容認する思惑が見て取れる。なお、12月のタイ国内旅行費を損金参入することが可能といった各種減税政策も取られている。一方ドルの環境としては、12月14日に予定されているFOMCによる利上げは既に織り込まれていると考えるが、このイベントを通過するまではトランプ相場は継続するものとする。しかし、このイベント通過後は、トランプ新大統領による材料も消化されていると考えると一旦は調整からドルが売られる展開を予測する。よって、中旬から下旬にかけて、ドルバーツは軟調な展開となるだろう。

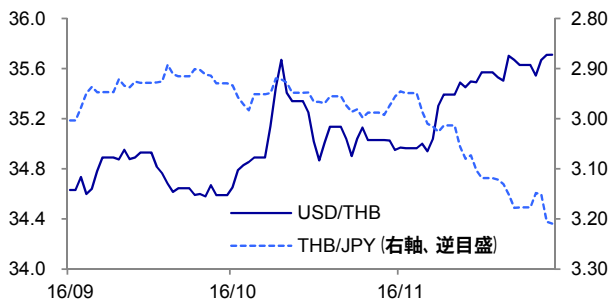
■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

タイは甘いものが豊富です。タイの皆さんは甘いものが大好きで、どんなものでも甘くしてしまいます。日本の「お茶」がタイでも売られていますが、スタンダードのお茶が甘いです。基本的にどんなものでも甘くしてしまう文化なのだと思いますが、一方でタイ料理という辛いものを想像すると思いますが、辛いものを食べて、甘いものを食べたり飲んだりすることで中和しているのだと個人的に思っています。(あくまでも個人的な感想です)そんなタイですが、砂糖の一大生産地でもあります。さとうきびから砂糖を生産しているのですが、国策として砂糖の生産量を拡大させており、輸出作物として成長させようとしてお世界第二位の輸出量を誇っています。また、タイ人の1日の砂糖消費量は、日本人の約3倍とそのデータからみても消費量のすばが良くわかります。私が、タイに来て実際に食べたもので、驚いたスイーツをひとつご紹介させていただきますと、「カオニアオマムアン」をあげたいと思います。タイに来て、同僚の進めに従って注文しましたが、まず出てきたものに驚きます。スイーツなのに、白いご飯とマンゴーがひとつの皿で出てきます。ご飯とマンゴー、見ただけで絶対に合わないと思いますが、一口食べるとこの絶妙な組み合わせが意外においしいです。いわゆる甘しょっぱい味ではないのですが、実はこの白いご飯はもち米でココナッツミルクがかかっています。甘さをより引き立たせる効果があり、まさにスイカに塩を振って食べている味覚です。タイへお越しの際は、ぜひとも一度ご賞味ください。

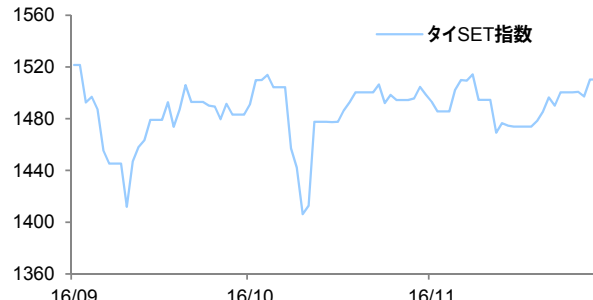
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/11	消費者物価指数(前年比)	10月	0.40%	0.34%	0.38%
11/11	CPIコア(前年比)	10月	0.76%	0.74%	0.75%
11/21	GDP(前年比)	3Q	3.40%	3.20%	3.50%
11/25	自動車販売台数	10月	-	60634	63641
11/28	輸出(通関ベース/前年比)	10月	1.20%	-4.22%	3.43%
11/28	輸入(通関ベース/前年比)	10月	2.10%	6.50%	5.57%
11/28	通関貿易収支(USD)	10月	\$1920M	\$248M	\$2546M
11/30	製造業生産指数	10月	-0.20%	0.10%	0.60%
11/30	設備稼働率指数	10月	-	65.40	65.2
11/30	経常収支	10月	\$3075M	\$2875M	\$2929M

マレーシアリング相場

予想レンジ:

USD/MYR 4.40 ~ 4.60
MYR/JPY 24.00 ~ 26.00

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

■ 先月の為替相場

先月のリング相場は4.19台半ばでオープン。1日に発表された中国10月の製造業PMIが予想比良好な内容となり、リングは4.17台後半まで上昇。しかし、原油価格の軟調地合を材料にリングは4.20台前半まで反落。その後、米大統領選挙を控えた警戒感からドル売りが優勢となり、リングは4.17台半ばまで値を戻すも、4日に発表されたマレーシア9月貿易収支が予想を下回ったことで、4.19台後半まで軟化した。

7日には、FBI長官が「クリントン氏の私用メール問題について訴追を求めないとした当初の判断を維持する。」と述べたことでドルが買い戻され4.21台中盤まで下落。その後も、米大統領選挙でクリントン氏優勢との報道から9日にはリングは4.17台後半まで大幅反発。しかし、実際にトランプ氏の勝利が確定するとリスク回避の地合いとなりリングは4.24台前半まで急落。その後、米長期金利急騰に新興国からの資金が流出、リングもマレーシア国債から資金流出が顕著となるなかで、4.28台後半まで続落。尚、11日にマレーシア7～9月期GDPが発表され、予想を上回る内容となるも、リング安の流れを食い止めるのには至らなかった。

月半ばに入ると、米長期金利上昇を背景としたドル買いが継続。マレーシア国内債券や株式市場からの資金流出が続き、4.33台前半まで続落。16日にはマレーシア中銀(BNM)がオフショアNDF市場におけるマレーシアリング安に対して警告を発したとの報道があるも、NDF市場でのリングも下落する展開。週末にかけても為替・債券・株式のトリプル安は止まらず、4.41台半ばまで値を下げた。

21日には、一旦米金利上昇を受けたドル高地合いに4.43台前半まで下落。しかし、ムハンマドBNM総裁が断続的にリング買い介入を実施したことを明らかにすると、4.41台前半まで小反発。週央にかけて、外国勢のリング資産売りの動きや原油価格が軟調に推移したことで4.44台半ばまで続落。23日にはBNM金融政策委員会が開催され、政策金利の据え置きが発表されたが、相場への影響は限られた。その後も資金流出の動きは止まらず、4.46台前半まで下げ幅を拡大した。月末週は、特段大きな動きはなく、結局4.46台後半でクローズしている。

■ 今月の見通し

足許の為替市場では、トランプ次期米大統領の政策期待から財政拡張の思惑が強まり、米金利上昇と共にドル高が進行。特に、新興国からの資金流出の動きが顕著であり、マレーシアも為替・債券・株式のトリプル安で反応した。マレーシアは長期債の外国人の保有率が高いことや金利が他の新興国に比べると低水準である為、引き続き売られやすい状況にあるものと考えられる。

直近のBNM金融政策委員会では、政策金利(OPR)の3.00%への据え置きを決定。しかしながら、BNMの金融政策については更なる利下げに対する思惑は残存。短期的には市場の関心が金利差に向かっている状況を踏まえると、利下げに対する期待感は、リングの下落圧力を高めることとなる。

さらに、先月発表された7～9月期GDPは前年比+4.3%と予想を上回る内容となったが、直近の貿易収支や鉱工業生産等からは、本格的な回復軌道に乗ったとは言いがたい状況であり、ファンダメンタルズに関してはリングをサポートするにはやや力不足である感否めない。

一方、これまでの米長期金利やドルの上昇は、思惑や期待感先行による側面が強く、今後政策期待の後退や米国の保護貿易主義的なスタンスが強まる局面では、ドルが反落する可能性も残る。加えて、これまでの上昇が急激であったこともあり、調整が入りやすい地合いであることにも注意が必要か。

上記の要因に鑑みると、今月のリング相場については基本的にリングの軟調推移を予想する。短期的なターゲットは4.50、同レベルをしっかりとブレイクするとすると、4.70近辺が当面のリングの下値目処となる。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

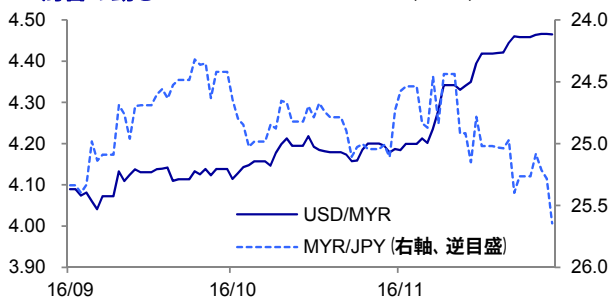
『当地のスイーツ事情』

私自身がほとんど甘いものを食さないことから正直スイーツと言われても全く頭に浮かんでこなかったのですが、とりあえずインターネットを叩いてみたところ、確かにこれはあったというのが幾つかありましたが、一言で言えば基本的にどのスイーツも原色系の色が多いということでしょうか。まずはアイスカチャンというマレーシア版カキ氷。氷にスイートコーン、豆、カラフルなゼリー、ナッツ等が乗っかって、そこに練乳をかけるというもの。現地スタッフに背中を押される格好で渋々食しましたが、その組み合わせは個人的に微妙な感じはしたものの、日本では体感できない味わいは一度試してみる価値はあるかなと思います。一方でロティピサンという薄焼きパンケーキにスライスしたバナナを乗つけたスイーツは、やはり現地スタッフがランチの時に持って帰ってきたものを勧められて食べたのですが、熱々でそこまで劇的に甘くもないのでべろっと一度に数枚いけてしまいました。他にもマレーシア特産っぽいのが多数ありますが、総じてイスラム教の国ゆえにお酒が禁じられている中、甘いものに走るのかもしれない。尚、最近では日本のスイーツ関係のお店も徐々に進出してきていて、当然ローカルスイーツと比較すれば値段は張りますが、美味しいスイーツにもありつけるようになってみたいですね。

(マレーシアみずほ 山田)

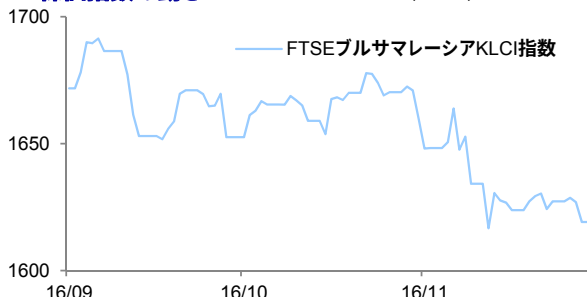
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/4	輸出 (前年比)	9月	-2.0%	-3.0%	1.5%
11/4	輸入 (前年比)	9月	-1.6%	-0.1%	4.9%
11/4	貿易収支 (MYR)	9月	8.90B	7.56B	8.51B
11/11	GDP (前年比)	3Q	4.0%	4.3%	4.0%
11/11	鉱工業生産 (前年比)	9月	4.0%	3.2%	4.9%
11/23	BNM翌日物政策金利		3.00%	3.00%	3.00%
11/25	消費者物価指数	9月	1.5%	1.4%	1.5%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13100 ~ 13700
 IDR/JPY 0.77 ~ 0.84
 JPY/IDR 118.00 ~ 125.68

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

■ 先月の為替相場

11月のドル/ルピアは、米大統領選挙におけるトランプ氏勝利による米国の積極的財政出動・利上げペース拡大観測から、約5か月ぶりの水準まで上昇。

月前半、13030近辺でスタートしたドル/ルピアは、米大統領選挙を控え、13000～13100の狭いレンジ取引に終始。7日に発表された7～9月期GDPが、予想を下回り前年比+5.02% (予想:+5.08%) となるも反応は限定的であった。

注目の米大統領選挙において、トランプ大統領勝利が伝わった直後、13200近辺まで上昇する場面もあったが、オンショア市場の反応は限定的であった。局面が変わったのは、11日朝、前日海外市場において、トランプ次期大統領が保護主義的な政策を推進するとの観測で新興国資産を取り巻くムードが悪化。オフショアNDFのドル/ルピアが、2011年以来の大幅下落を記録、13600近辺まで上昇すると、11日のオンショア市場では、寄り付きから同水準まで急騰 (ルピア下落) したが、その後、インドネシア中銀 (BI) の介入観測もあり、13300近辺まで反落した。

その後も、トランプ次期大統領による、積極的な財政出動・利上げペース拡大観測からドル全面高の展開の中で、ルピア売りフローがみられているが、11日発表の7～9月期経常収支において赤字幅が縮小していること、15日発表の10月貿易収支において貿易収支黒字が確保されたこと等がサポート材料になっていることに加え、断続的なBI介入観測もあり、上昇ペースは緩やかなものとなっており、24日時点、13500近辺での推移となっている。

BIは米大統領選挙前に更なる金融緩和の可能性を示唆していたが、17日に開催された定例会合においては、上記市場動向を考慮し、金利据置き (BI7日物リバースレポレート: 4.75%) とした。

■ 今月の見通し

今月のドル/ルピアは、ルピア軟調な展開を予想。

米大統領選挙におけるトランプ氏の勝利により、積極的な財政出動・利上げペース拡大観測からオフショア市場主導で、通貨安・株安・債券安に見舞われた。

現在、落ち着きは取り戻しているが、今後の世界政治・経済の不確実性を考慮すると、前月までのルピア堅調地合いは、ボラタイルかつルピア安バIASが掛かり易い地合いに変わったとみるべきであろう。

市場の反応は、「米国の積極的な財政出動⇒景気浮揚⇒利上げ⇒ドル高」であるが、トランプ氏が推進しようとする保護貿易⇔ドル高は、相反する関係であり、行き過ぎたドル高は将来的には修正される可能性が高いとみている。但し、今月については、現状のドル高地合いが継続するものと見ている。

しかしながら、インドネシア国内経済指標に目を向けると、決して良くはないが、悪くもない状況。加えて、9月下旬に起こった急激な資金流入時にBIは外貨準備も着実に積み増しており (10月末現在USD115bil)、為替相場のマネージは可能と見ている。

以上より、ルピア安圧力は掛かり易い地合いながら、急落の可能性は低いとみている。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

正直、甘いものはほとんど口にしないため、書く内容に困るのですが、インドネシアでは、誕生日の人がいると、その人がプレゼントを受け取るのではなく、近い人 (たとえば同じ課のスタッフ) にお菓子などを振る舞うのが一般的です。

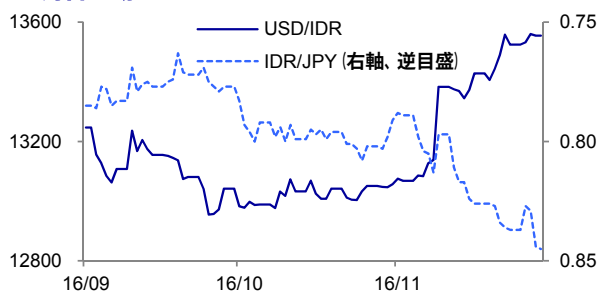
インドネシア駐在時、やはり私も、スタッフから、誕生日だ、といって、このお菓子を振る舞われる場面に何度も遭遇したのですが、普段から甘いものを口にしないため、対応に苦慮していました。

特に夕方ごろ、仕事も終盤に差し掛かり、おいしいビールを飲もうと、この渴きを維持するため、水分などをセーブし始めた頃に、パイ系の口内をバサバサさせるものが配られた時は、本当に困りました。

ありがとう、とスタッフにお礼を言って、妻にパスしたのは、言うまでもありません。

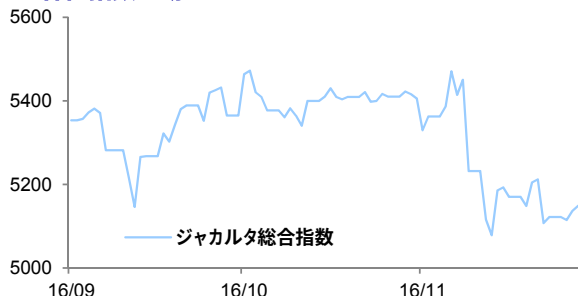
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	CPI (前年同月比)	10月	3.30%	3.31%	3.07%
11/7	GDP (前年比)	3Q	5.08%	5.02%	5.19%
11/7	外貨準備高 (USD B)	10月	-	115.0	115.7
11/11	経常収支 (USD M)	3Q	-4,533	-4,493	-4,995
11/15	貿易収支 (USD M)	10月	1,011	1,207	1,271
11/15	輸出 (前年比)	10月	3.60%	4.59%	-0.16%
11/15	輸入 (前年比)	10月	4.90%	3.27%	-2.26%
11/17	BI 7日物リバースレポ金利		4.75%	4.75%	4.75%

フィリピンペソ相場

予想レンジ:

USD/PHP	49.40	~	51.80
PHP/JPY	2.17	~	2.28

マニラ支店 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

11月のドルペソ為替相場(オンショア・インターバンク市場)は、1ドル=48.38ペソで取引開始。
当地の市場参加者の注目が勿論、米大統領選挙。

月初は一大イベント前に取引も手控えられていたが、私用メール問題で米大統領候補のクリントン氏の追訴をFBIが見送ったとの報道で、主要通貨がドル買いに傾き、ドルペソも1ドル=48.60ペソ台に強含みとなり、米大統領選挙の開票を迎えた。

9日のアジア時間朝より各州の開票結果が出始め、トランプ氏善戦・優勢との報道にリスクオフ地合、株安、金利低下、円高、アジア通貨安(人民元はドル安に連れて元高)の反応、ドルペソは一時1ドル=48.85ペソまでペソ安が進んだ。

トランプ氏の当選が確実視されると、想定されていた市場クラッシュ(混乱)はなく、実に落ち着いた反応で次第に開票中のリスクオフの流れが巻き戻されることとなり、ドルペソは結局、1ドル=48.59ペソ、選挙前日の終値と同水準で取引終了。

選挙明けからはトランプトレードの流れにドル買いが優勢に。
11日(金)の終値は1ドル=48.95ペソ。この水準では過度なペソ安を牽制する当局の動きが意識されていたが、週明け14日はあっさり1ドル=49ペソ台で取引開始。
17日には米連邦準備理事会のイエレン議長が『近い時期の利上げが適切』と発言をしたことで12月の連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げが確実視され、ドルペソは日々上値を更新。

24日には10年ぶりのペソ安水準である1ドル=50ペソ丁度にワンタッチ。
そこから当局の介入と思しきドル売りと、12月米雇用統計を前にドルの買い持ちポジションを縮小する投資家のペソ買戻しフローに1ドル=49.70ペソ台に押し戻され取引終了となった。

■ 今月の見通し

9月OFW送金データは昨年対比で6.7%増、先月から64mioドル増加の2,383mioドル。市場予想対比で上回っており、クリスマス商戦に向けて国内消費にとっては明るい結果。

また、比第3四半期GDPは7.1%(前年対比)となり、市場予想を上回り、経済のファンダメンタルズは引き続き好調。トランプトレードの前では影響は限定的だったもののペソ買い材料ではある。

米大統領選挙後、アジアからの資本流出懸念でアジア通貨は売られているが、IMFによるとアジアの中で資本流出に耐性(外貨準備と対外債務のバランス)のある国ナンバー1はフィリピン。外貨準備は月次輸入額の12倍あり、OFWによる安定的な外貨ファンディングも強み。

と、ペソ買い材料を並べたものの、結局はトランプトレードが続くか否か次第。

中銀は現状の相場について“投機的な動きがなければ懸念していない”、とコメントしている(本音は不明だが公式コメントはそうだ)。インフレが抑えられている中ではある程度のペソ安は許容できるというスタンスか(OPECで減産合意となり、原油高トレンドとなれば、スタンスは変わってくるとみるが)。

ただ、トランプトレード終了後には、リスクオフとなる可能性が高い。よってどちらにしてもペソ安地合は継続しそうだが・・・。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

アジアのスイーツはやけに甘い。
マニラもご多分にもれず、という認識で小職は赴任した。

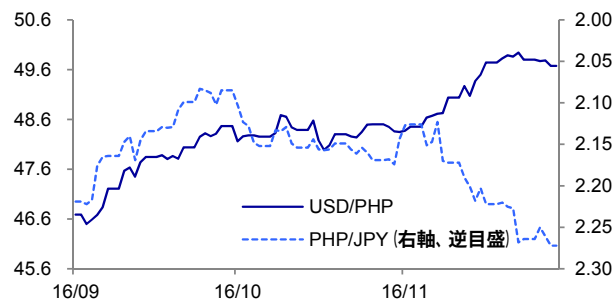
赴任してからもフィリピン料理は一般的にしよっぱい、油っこい、甘いキーワードと言われ、スイーツには一切期待することもなかった。

…食わず嫌い、先入観はダメですね、ありました！おいしいケーキ屋さん、日本基準！！

『何でもトライ！！』の精神を思い出しました。

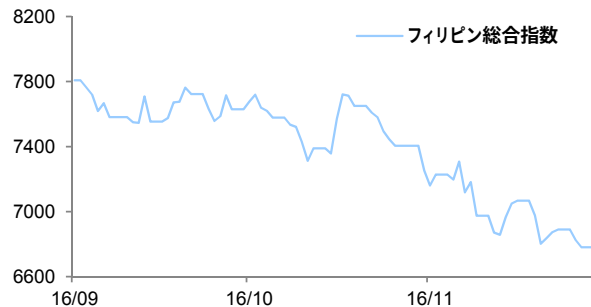
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
上記ご参照	

(資料) ブルームバーク			
期間	予想	結果	前回

インドルピー相場

予想レンジ:

USD/INR 67.50 ~ 70.00
INR/JPY 1.60 ~ 1.70

アジア・オセアニア資金部 田川 順也

■ 先月の為替相場

11月のインドルピーは対ドルで大きく下落した。

ドル/ルピーは66.70レベルで11月をオープン。当初は材料難の中、66.70前後でのボックスレンジが続いたが、8日の現地時間夜に高額紙幣流通中止を政府が発表、当初は政府による脱税・汚職に対する強い姿勢を評価するムードにこの月のルピー高値である66.33レベルまでドル/ルピーは下落した。

ただし、その後は「トランプショック」にインドルピー相場も抗えず、ルピー安に反転。開票以降継続するドル全面高/新興国通貨全面安の展開にインドルピーも対ドルで売り込まれ、ドル/ルピーは年初来高値を更新し、2013年9月以来となる65.86近辺まで上昇。

終盤にかけては、一服感が出たことからやや水準を戻し、28日時点でドル/ルピーは68.70レベルでの推移となっている。

尚、ルピー/円相場は1.57レベルでスタート。米大統領選開票中に1.51レベルの安値を一時的につけるも、当選演説以降は大幅な円安に連日ルピー/円は上値迫いの展開。月末にかけてもドル/円が114日前まで上昇、ルピー・円共に対ドルで下落したが、下落幅が円の方が圧倒的に大きく、ルピー/円の観点ではルピー高/円安が進行。高値を1.66近辺まで伸ばし、28日現在1.63レベルでの推移となっている。

■ 今月の見通し

12月のインドルピー相場は軟調な展開を予想。

市場参加者の焦点はトランプ氏の政策の主役である減税と大型公共投資となっており、これらへの期待から米国の期待インフレ率が上昇、金利上昇・株式上昇・米ドル上昇と米国資産への選好が強まっている。上下院ねじれが解消したとはいえ、共和党内であっても同氏政策に全面的に賛同しているメンバーばかりではないことや具体的な財源を明らかにしていない等、実行性への疑問も残るが、現状のマーケットの勢いを見る限り、トランプ相場は今しばらく続きそうか。為替市場でドルが買われる展開の継続を見ている。

また、インド経済要因では高額紙幣流通停止に伴い、個人消費の落ち込みが既定路線として考えられている。GDPへのマイナス寄与もさることながら、短期的なインフレ抑制も懸念されている状況。併せて、旧紙幣の預け入れがされていることから銀行預金残高が急増。銀行は見合い資産としてインド国債を買わざるを得ず、結果的に国債利回りが急低下している。これらから、インド準備銀行(RBI)の利下げ観測が高まっており、ルピー安材料となりやすいだろう。

中銀イベントではRBIの金融政策決定会合は12月7日に、FOMCは12月13日～14日に予定されており、上述のようにRBIが利下げ、FOMCが市場予想通り利上げとなった場合、金融政策の違いからドル/ルピーの上昇基調は明確となるだろう。

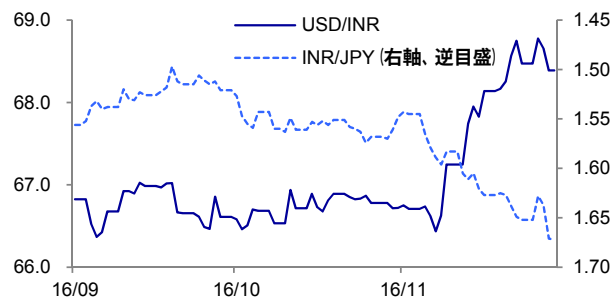
■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のスイーツ事情』

インドの伝統的スイーツは基本的にとても甘い。お祝い時に配られる練乳を煮詰めて銀箔を張り付けたもちっとしたものの、穀物の団子に蜜をかけたようなもの、甘い牛乳に何やら粒々が沈んでいるもの。甘い上に食べ甲斐があるため、日本人には少々重いと感じるかもしれない。インド人はお寺にもよく行くので、そこで縁起物としてなのか手に入れてくることもある。ビニール袋にこぶしより大きな塊がごろんごろんと放り込まれていて、ぎょっとした。それを皆で少しずつ崩しながら食べる。スパイシーなインド料理の相棒は、ひたすら甘いスイーツだけなのかというと、淡泊な日本人の舌にも合うものもある。クルフィと呼ばれる小さな壺入りのアイスクリームはなかなかである。牛乳と練乳を煮詰めて冷やしたもので、卵が入っていないためベジタリアンでも安心して食べられるため人気だ。さっぱりしておいしい。また、スイーツに含まれるかはわからないが、日本人も知っているだろうラッシーもまたとてもおいしい。流石本場である。マンゴーラッシーなど季節のフルーツの味も楽しめる。様々な味のミルクシェイクや果物を浮かべたクリームメニューに載っている。伝統的スイーツだけではなく、ワッフルやジェラート、チョコレート売るしゃれた店も町中にあり、人気を博している。食に関して保守的なインド人も、甘味にはその保守性を忘れるのだろうか。…そうに違いない。旅行に等行くと、「お土産のチョコレートはないの?」とねだりにくる。暑い気候に身体が疲れるのか、時々無性に甘いものが欲しくなり、渡されるスイーツの甘味にほっとすることがある。多分インドを離れた後、この甘味をを懐かしむことになるのではないかと思う。(チェンナイ支店 近藤)

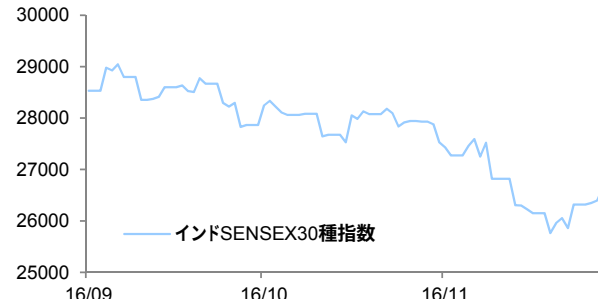
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

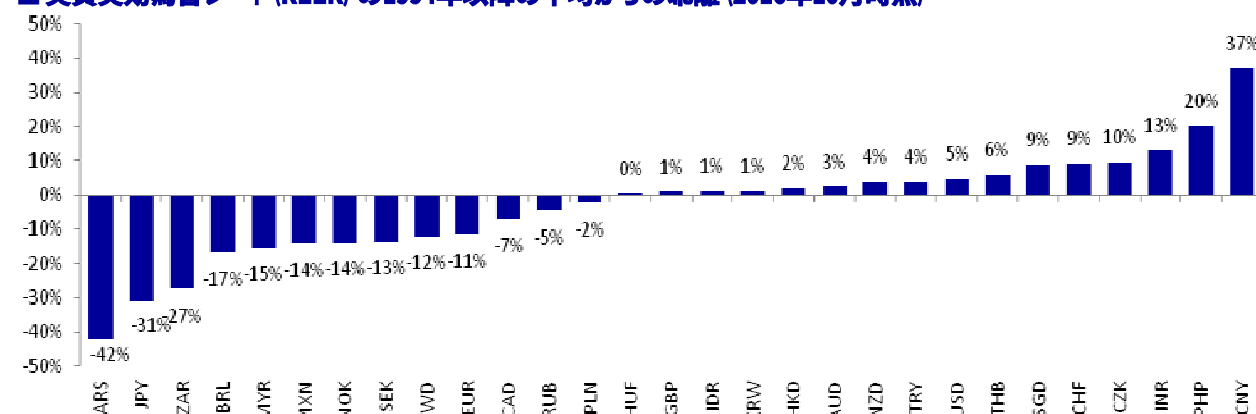
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
11/1	日経インドPMI製造業	10月	-	54.4	52.1
11/3	日経インドPMIコンボジット	10月	-	55.4	52.4
11/11	鉱工業生産 (前年比)	9月	0.5%	0.7%	-0.7%
11/15	卸売物価 (前年比)	10月	3.74%	3.39%	3.57%
11/15	消費者物価指数 (前年比)	10月	4.15%	4.20%	4.31%
11/15	輸入 (前年比)	10月	-	8.1%	-2.5%
11/15	輸出 (前年比)	10月	-	9.6%	4.6%

為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2015年末	2016年11月末	騰落率	株式市場	2015年末	2016年11月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	17425.03	19123.58	9.7%	-
日本	USD/JPY	120.22	114.46	-4.8%	日経平均株価	19033.71	18308.48	-3.8%	1.0%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0862	1.0589	-2.5%	ドイツDAX指数	10743.01	10640.3	-1.0%	-1.0%
英国	GBP/USD	1.4736	1.2506	-15.1%	ロンドンFTSE100指数	6242.32	6783.79	8.7%	28.1%
豪州	AUD/USD	0.7286	0.7385	1.4%	S&P/ASX200指数	5295.9	5440.472	2.7%	1.4%
カナダ	USD/CAD	1.3839	1.3437	-2.9%	S&Pトント総合指数	13009.95	15082.85	15.9%	19.4%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.4937	6.8894	6.1%	上海総合	3539.182	3250.035	-8.2%	-13.4%
香港	USD/HKD	7.7507	7.7565	0.1%	香港ハンセン	21914.4	22789.77	4.0%	3.9%
インド	USD/INR	66.1537	68.3887	3.4%	インドSENSEX30種	26117.54	26652.81	2.0%	-1.3%
インドネシア	USD/IDR	13788	13555	-1.7%	ジャカルタ総合	4593.008	5148.91	12.1%	14.0%
韓国	USD/KRW	1175.06	1168.96	-0.5%	韓国総合株価	1961.31	1983.48	1.1%	1.7%
マレーシア	USD/MYR	4.2943	4.4662	4.0%	ブルサマレーシアKLCI	1692.51	1619.12	-4.3%	-8.0%
フィリピン	USD/PHP	46.905	49.676	5.9%	フィリピン総合	6952.08	6781.2	-2.5%	-7.9%
シンガポール	USD/SGD	1.4185	1.4334	1.1%	シンガポールST	2882.73	2905.17	0.8%	-0.3%
台湾	USD/TWD	32.862	31.869	-3.0%	台湾加権	8338.06	9240.71	10.8%	14.3%
タイ	USD/THB	36.03	35.709	-0.9%	タイSET	1288.02	1510.24	17.3%	18.3%

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

実質実効為替レート (REER) の1994年以降の平均からの乖離 (2016年10月時点)



(資料) BIS

■ 実質GDP成長率

	2015Q1	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2014	2015
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.0	2.6	2.0	0.9	0.8	1.4	3.2	2.4	2.6
日本*	5.0	-1.3	1.6	-1.6	2.1	0.7	2.2	0.0	0.6
ユーロ圏	1.8	2.0	2.0	2.0	1.7	1.6	1.6	1.2	2.0
英国	2.8	2.4	1.9	1.7	1.9	2.1	2.3	3.1	2.2
豪州	2.3	2.0	2.6	2.8	3.0	3.3		2.7	2.4
カナダ*	-1.0	-0.5	2.3	0.5	2.7	-1.3	3.5	2.5	1.1
エマージングアジア									
中国	7.0	7.0	6.9	6.8	6.7	6.7	6.7	7.3	6.9
香港	2.4	3.1	2.3	1.9	0.8	1.7	1.9	2.7	2.4
インド	6.7	7.5	7.6	7.2	7.9	7.1	7.3	7.2	7.6
インドネシア	4.7	4.7	4.7	5.0	4.9	5.2	5.0	5.0	4.8
韓国	2.4	2.2	2.8	3.1	2.8	3.3	2.7	3.3	2.6
マレーシア	5.7	4.9	4.7	4.5	4.2	4.0	4.3	6.0	5.0
フィリピン	5.0	5.9	6.2	6.5	6.8	7.0	7.1	6.2	6.3
シンガポール	2.7	1.7	1.8	1.8	2.0	2.0	1.1	3.3	2.0
台湾	4.0	0.7	-0.7	-0.8	-0.2	1.1	2.0	4.0	0.7
タイ	3.0	2.7	2.9	2.8	3.2	3.5	3.2	0.9	2.8

(注) インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	16/04 (%)	16/05	16/06	16/07	16/08	16/09	16/10	2014 (%)	2015
先進国									
米国	5.0	4.7	4.9	4.9	4.9	5.0	4.9	6.2	5.3
日本	3.2	3.2	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.6	3.4
ユーロ圏	10.1	10.1	10.1	10.0	10.0	10.0		11.6	10.9
英国	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8		6.3	5.4
豪州	5.7	5.7	5.8	5.7	5.7	5.6	5.6	6.1	6.1
カナダ	7.1	6.9	6.8	6.9	7.0	7.0	7.0	6.9	6.9
エマージングアジア									
中国			4.1					4.1	4.1
香港	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.3
インドネシア					5.6			5.8	6.0
韓国	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	4.0	3.7	3.5	3.6
マレーシア	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5		2.9	3.2
フィリピン	6.1			5.4				6.8	6.3
シンガポール			2.1			2.1		2.0	1.9
台湾	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8
タイ	1.0	1.2	1.0	1.0	0.9	0.9	1.2	0.8	0.9

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	16/05	16/06	16/07	16/08	16/09	16/10	16/11	2014	2015
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	1.0	1.0	0.8	1.1	1.5	1.6		1.6	0.1
日本	-0.5	-0.4	-0.4	-0.5	-0.5	0.1		2.7	0.8
ユーロ圏	-0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.5	0.6	0.4	0.0
英国	0.3	0.5	0.6	0.6	1.0	0.9		1.5	0.0
豪州		1.0			1.3			2.5	1.5
カナダ	1.5	1.5	1.3	1.1	1.3	1.5		1.9	1.1
エマージングアジア									
中国	2.0	1.9	1.8	1.3	1.9	2.1		2.0	1.4
香港	2.6	2.4	2.3	4.3	2.7	1.2		4.4	3.0
インド	5.8	5.8	6.1	5.1	4.4	4.2		6.4	5.9
インドネシア	3.3	3.5	3.2	2.8	3.1	3.3		6.4	6.4
韓国	0.8	0.8	0.7	0.4	1.2	1.3	1.3	1.3	0.7
マレーシア	2.0	1.6	1.1	1.5	1.5	1.4		3.2	2.1
フィリピン	1.6	1.9	1.9	1.8	2.3	2.3		4.1	1.5
シンガポール	-1.6	-0.7	-0.7	-0.3	-0.2	-0.1		1.0	-0.5
台湾	1.2	0.9	1.2	0.6	0.3	1.7		1.2	-0.3
タイ	0.5	0.4	0.1	0.3	0.4	0.3		1.9	-0.9

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2015Q1 (対GDP比%)	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2014 (対GDP比%)	2015
先進国									
米国	-2.3	-2.4	-2.5	-2.5	-2.6	-2.7		-2.3	-2.6
日本	1.8	2.4	2.9	3.3	3.6	3.8	3.9	0.8	3.3
ユーロ圏	2.6	2.9	3.1	3.1	3.1	3.3		2.4	3.1
英国	-4.8	-5.0	-5.0	-5.4	-5.4	-5.7		-4.7	-5.4
豪州	-3.4	-5.2	-4.8	-5.5	-3.6	-3.8		-3.0	-4.7
カナダ	-2.8	-3.0	-3.3	-3.4	-3.3	-3.5	-3.5	-2.4	-3.4
エマージングアジア									
中国	3.3	3.2	3.0	3.0	2.6	2.4	2.4	2.7	3.0
香港	1.3	2.6	3.1	3.1	3.8	4.3		1.3	3.1
インド	-1.3	-1.3	-1.1	-1.1	-1.1	-0.8		-1.4	-1.1
インドネシア	-3.0	-2.5	-2.2	-2.1	-2.1	-2.1	-2.1	-3.1	-2.1
韓国	6.7	7.0	7.7	7.7	8.0	7.9		6.0	7.7
マレーシア	3.5	2.7	2.5	2.9	2.4	1.9	1.9	4.4	2.9
フィリピン	4.1	4.1	3.4	2.6	2.2	1.1		3.8	2.6
シンガポール	20.3	19.5	19.3	19.8	19.2	20.7	21.7	19.4	19.8
台湾	13.2	13.2	14.1	14.5	14.3	14.6	14.2	11.8	14.5
タイ	4.6	5.7	7.3	8.2	10.3	11.1	12.0	3.8	8.2

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.25 - 0.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2015/12/17	25	2016/11/3	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2016/11/1	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2016/10/20	現状維持
英国	バンク・レート	0.25	緩和: 2007/12/6	5.75	2016/8/4	-25	2016/11/3	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2016/11/1	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2016/10/19	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レポ金利	6.25	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/10/4	-25	2016/10/4	-25bp
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/10/20	-25	2016/11/17	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.25	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/9	-25	2016/11/11	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/7/13	3.00	2016/7/13	-25	2016/11/23	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2016/11/10	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2016/11/9	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行